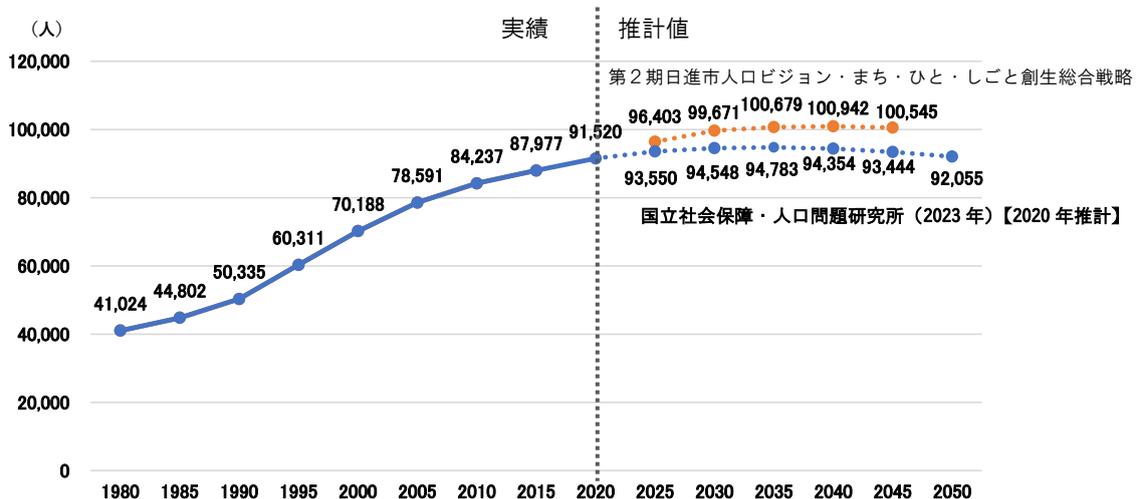


# 第1章 都市の現状及び将来見通し

## 1 人口

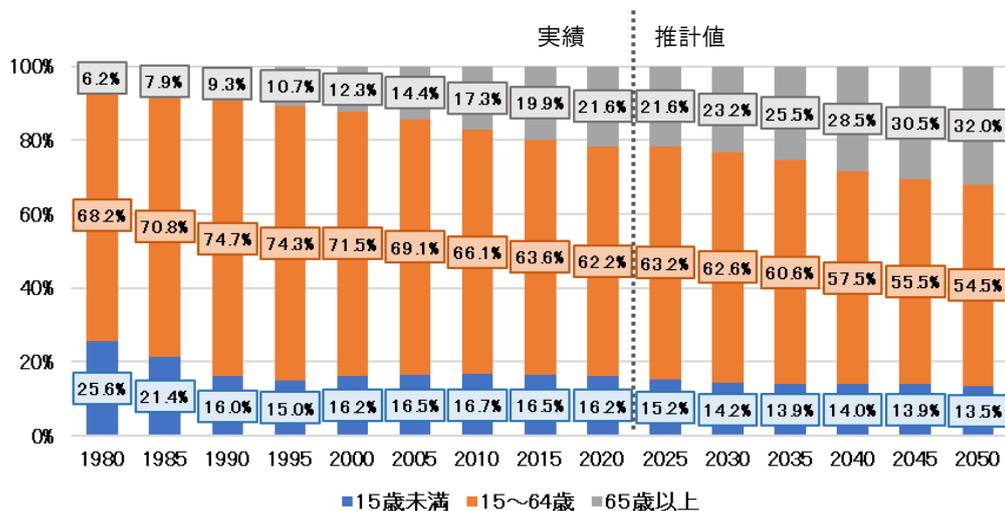
### (1) 人口の推移

- 【現状】
- ・ 国勢調査における本市の人口は、1980年以降増加しており、2020年は91,520人となっています。
  - ・ 年少人口（15歳未満）の割合は、1980年から1995年にかけて減少した後、1995年から2010年にかけて増加しましたが、2010年から2020年にかけて再び減少しています。
  - ・ 生産年齢人口（15～64歳）の割合は、1980年から1990年にかけて増加しましたが、以降は減少しています。
  - ・ 高齢者人口（65歳以上）の割合は、1980年は6.2%でしたが、2020年には21.6%まで増加しており、高齢化が進行しています。
- 【将来】
- ・ 人口は2040年頃までにピークを迎え、その後減少に転じる見込みです。また、少子高齢化が進行し、2050年には、高齢者人口の割合は32.0%になる見込みです。



資料: (実績)国勢調査、(推計値)国立社会保障・人口問題研究所(2023年)【2020年推計】、  
第2期日進市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略

図 1-1 人口の実績及び将来推計



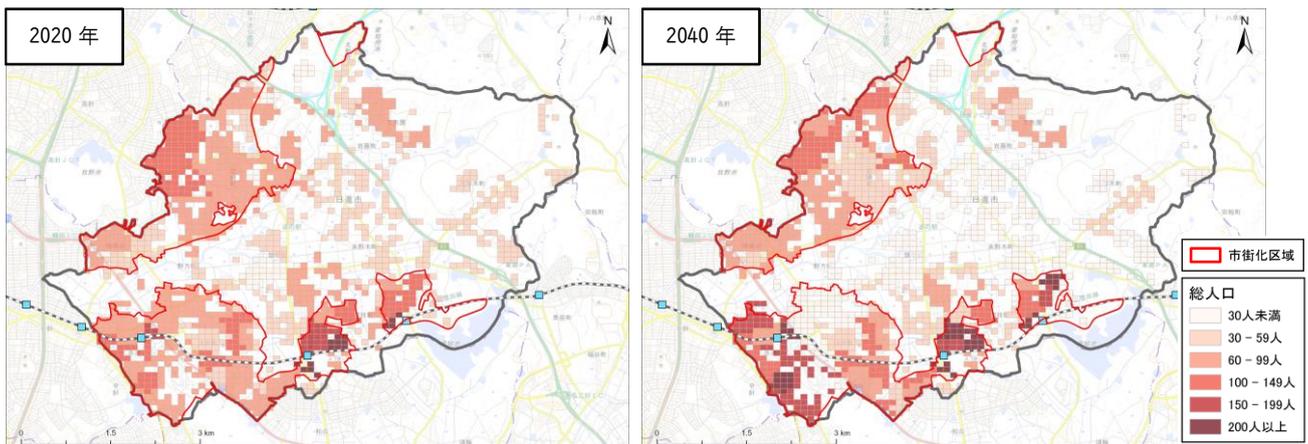
資料: (実績)国勢調査、(推計値)国立社会保障・人口問題研究所(2023年)【2020年推計】

図 1-2 年齢階層別人口構成比の実績及び将来推計

## (2) 人口分布の推移

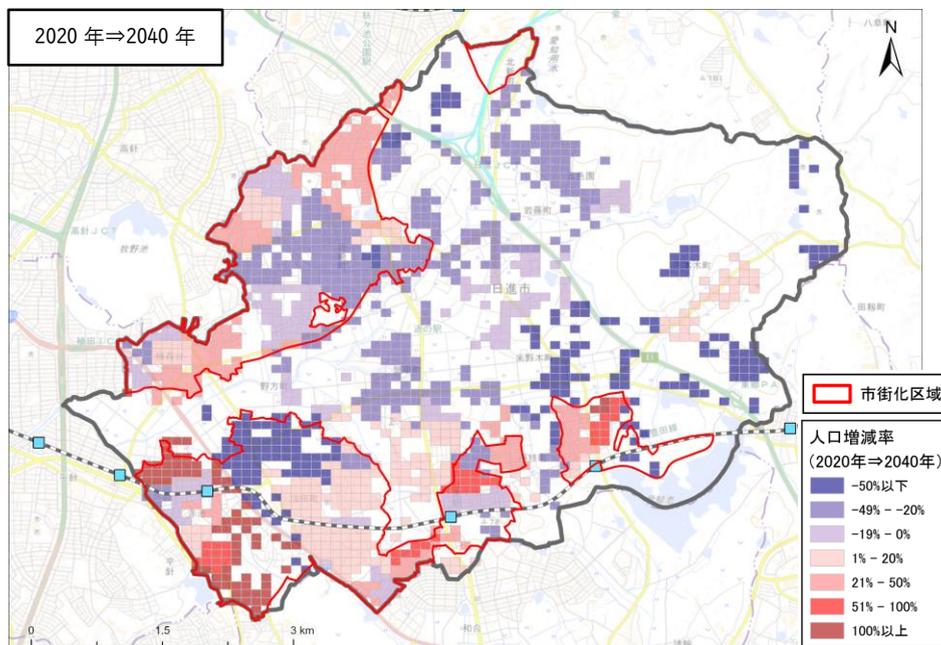
### ア. 人口

- 【現状】
- ・ 人口は、市街化区域に多く分布しています。
  - ・ 特に、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺の他、名古屋市と隣接する香久山や岩崎台に多く分布しています。
  - ・ 市街化調整区域では、人口は多くないものの広範囲にわたって分布しています。
- 【将来】
- ・ 2020年から2040年にかけて、市街化区域では浅田町や岩崎町、香久山、岩崎台周辺等で人口が減少する地域はありますが、現在特に人口が集中している赤池駅、日進駅、米野木駅周辺では人口が増加する見込みです。
  - ・ 市街化調整区域のほとんどで、人口が減少する見込みです。



資料: 国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-3 人口分布(左:2020年、右:2040年)

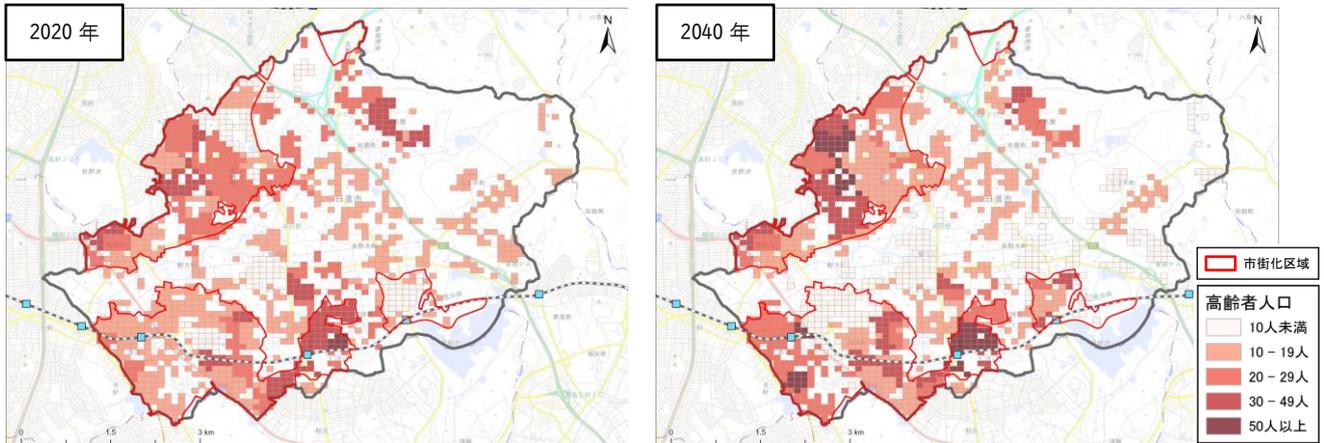


資料: 国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-4 人口増減(2020年⇒2040年)

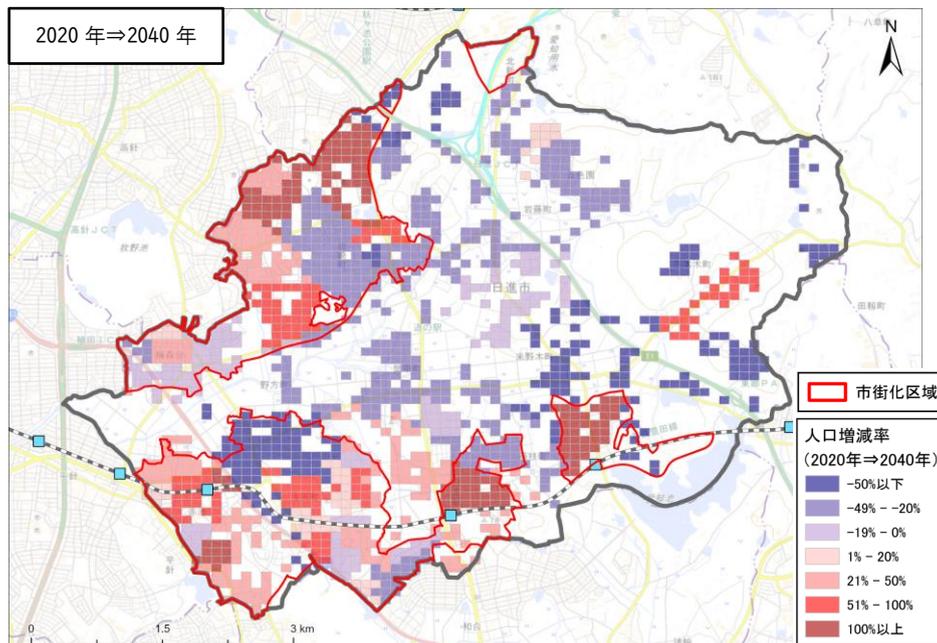
## イ. 高齢者人口

- 【現状】
- ・ 高齢者人口は、市街化区域で、特に日進駅周辺、香久山、岩崎台に多く分布しています。
  - ・ 市街化調整区域では、折戸町や五色園周辺等に多く分布しています。
- 【将来】
- ・ 2020年から2040年にかけて、市街化区域では、浅田町、岩崎町、南ヶ丘、東山等で高齢者人口が減少の見込みです。一方で、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺や香久山、岩崎台、竹の山では高齢者人口が増加の見込みです。
  - ・ 市街化調整区域のほとんどで、高齢者人口が減少の見込みです。



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-5 高齢者人口分布(左:2020年 右:2040年)

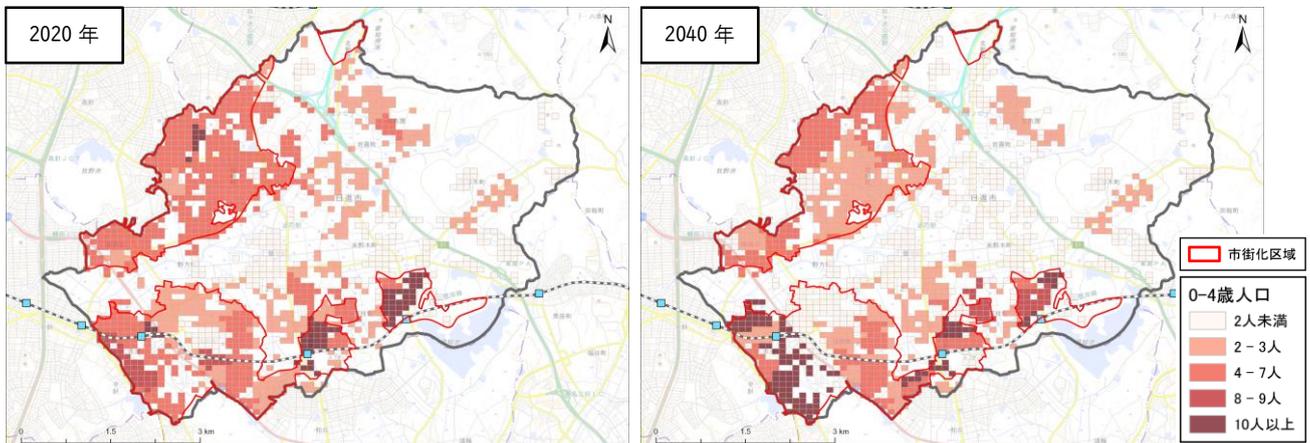


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-6 高齢者人口増減(2020年⇒2040年)

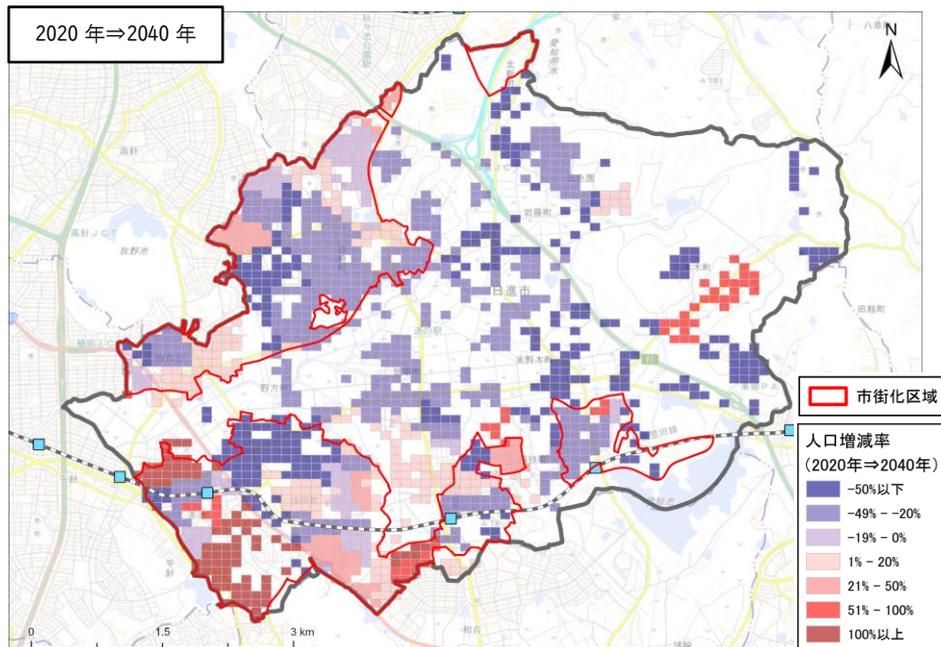
## ウ. 0-4 歳の人口

- 【現状】
- ・ 0-4 歳の人口は、市街化区域に多く分布しています。
  - ・ 特に、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺や岩崎台に多く分布しています。
- 【将来】
- ・ 2020 年から 2040 年にかけて、市街化区域では多くの地域で 0-4 歳の人口が減少しますが、赤池駅周辺では増加する見込みです。
  - ・ 市街化調整区域のほとんどで、0-4 歳の人口が減少する見込みです。



資料:国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-7 0-4 歳の人口分布(左:2020年 右:2040年)

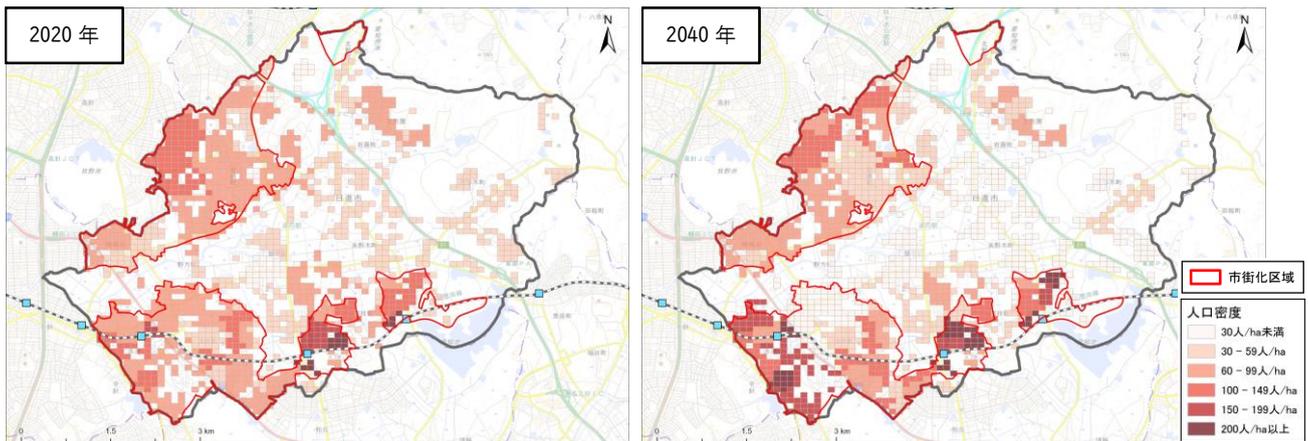


資料:国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-8 0-4 歳の人口増減(2020年⇒2040年)

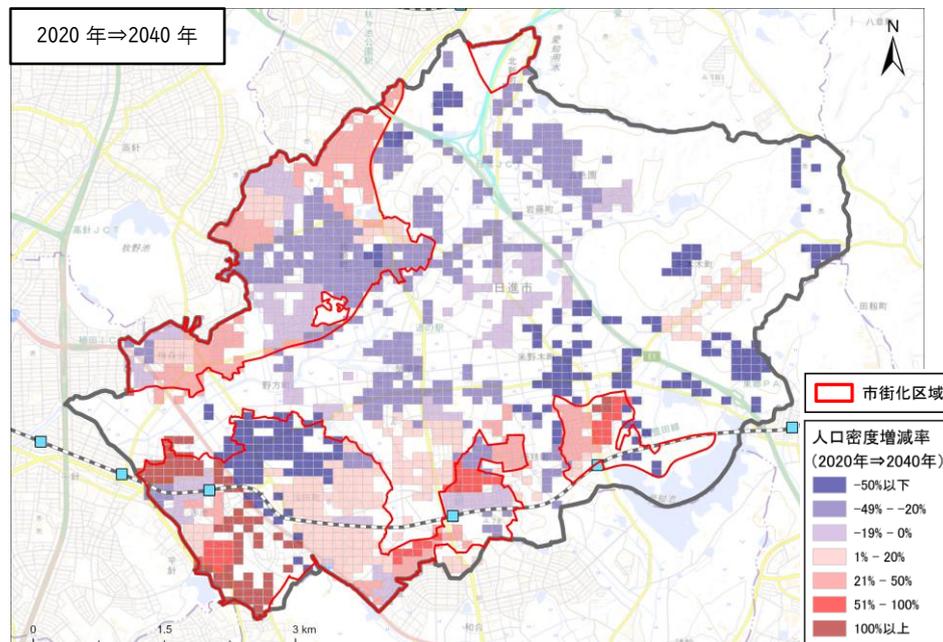
### (3) 人口密度の推移

- 【現状】
- ・ 人口密度は、市街化区域で高くなっています。
  - ・ 特に、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺その他、名古屋市と隣接する香久山や岩崎台では、人口密度が高くなっています。
  - ・ 市街化調整区域では、人口密度は低くなっています。
- 【将来】
- ・ 2020年から2040年にかけて、市街化区域では浅田町や岩崎町、香久山、岩崎台などで人口密度が低くなる地域はありますが、現在特に人口密度が高い赤池駅、日進駅、米野木駅周辺ではさらに高くなる見込みです。
  - ・ 市街化調整区域のほとんどで、人口密度が低くなる見込みです。



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-9 人口密度(左:2020年、右:2040年)

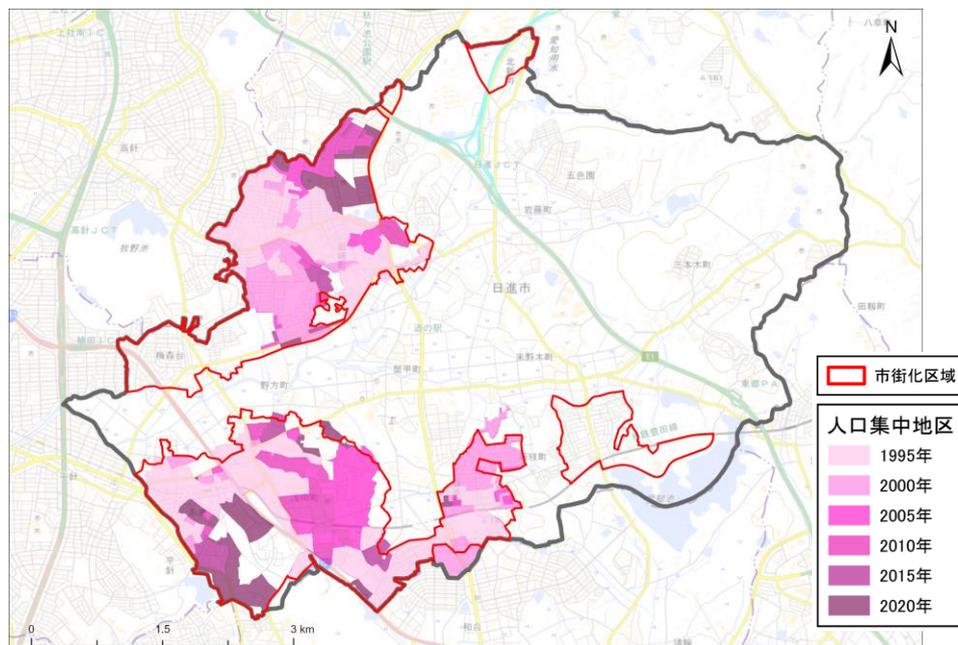


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-10 人口密度(2020年⇒2040年)

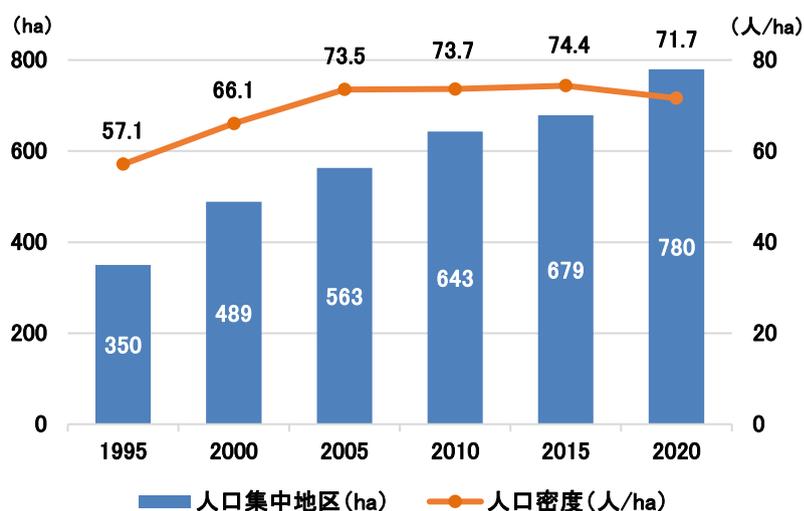
## (4) 人口集中地区 (DID) の推移

- 【現状】
- ・ 人口集中地区は 1995 年以降拡大傾向にあり、2020 年時点で約 780ha になりました。
  - ・ 人口集中地区の人口密度は 1995 年から 2015 年にかけて上昇し、74.4 人/ha まで増加しましたが、2015 年から 2020 年にかけては減少しています。
  - ・ 近年では、赤池駅周辺や竹の山での拡大が顕著となっています。
- 【将来】
- ・ 人口減少が見込まれる中で、今後も人口集中地区が拡大する場合、人口集中地区の人口密度が低下し、公共交通や都市機能、都市基盤の維持等に影響が生じる地域が出てくる可能性があります。



資料：国土地理院、国土数値情報 人口集中地区データ(1995年～2020年)

図 1-11 1995 年-2020 年人口集中地区(DID)の変遷



資料：国勢調査(1995年～2020年)

図 1-12 人口集中地区(DID)の面積と人口密度の推移

## ■人口の課題

### 現状及び将来見通し

- ・ 1980 年以降、人口は増加傾向にあります。2040 年頃までにピークを迎え、その後減少に転じる見込みです。
- ・ 将来的に、少子高齢化が進行し、2050 年には、高齢者人口割合は 32.0%になる見込みです。
- ・ 現在、人口は市街化区域に多く分布しています。人口の多い赤池駅、日進駅、米野木駅周辺では、さらに人口が増加する見込みです。しかし、市街化区域内の浅田町、岩崎町、香久山、岩崎台周辺に加え、市街化調整区域のほとんどで人口は減少する見込みです。
- ・ 高齢者人口は、市街化区域で、特に日進駅周辺、香久山、岩崎台に多く分布しています。一方、市街化調整区域では、折戸町や五色園周辺等に多く分布しています。今後、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺や香久山、岩崎台、竹の山では高齢者人口が増加する見込みです。
- ・ 0-4 歳の人口は、市街化区域に多く分布しており、特に赤池駅、日進駅、米野木駅周辺や岩崎台に集中しています。今後、赤池駅周辺では増加する見込みですが、その他の多くの地域では減少する見込みです。
- ・ 人口密度は、市街化区域で高くなっています。現在特に人口密度が高い赤池駅、日進駅、米野木駅周辺ではさらに高くなる見込みです。一方、市街化調整区域のほとんどで人口密度は低くなる見込みです。
- ・ 人口集中地区の面積は拡大傾向にあります。人口密度は 1995 年から 2015 年にかけて上昇し、74.4 人/ha まで増加しましたが、2015 年から 2020 年にかけては減少しています。



### 課題

- 人口減少や少子高齢化が進む中においても、必要な生活サービスを確保し、都市の活力を維持していくことが必要
- 今後増加が見込まれる高齢者と子育て世帯が、安心して暮らせる環境の充実が必要

## 2 土地利用

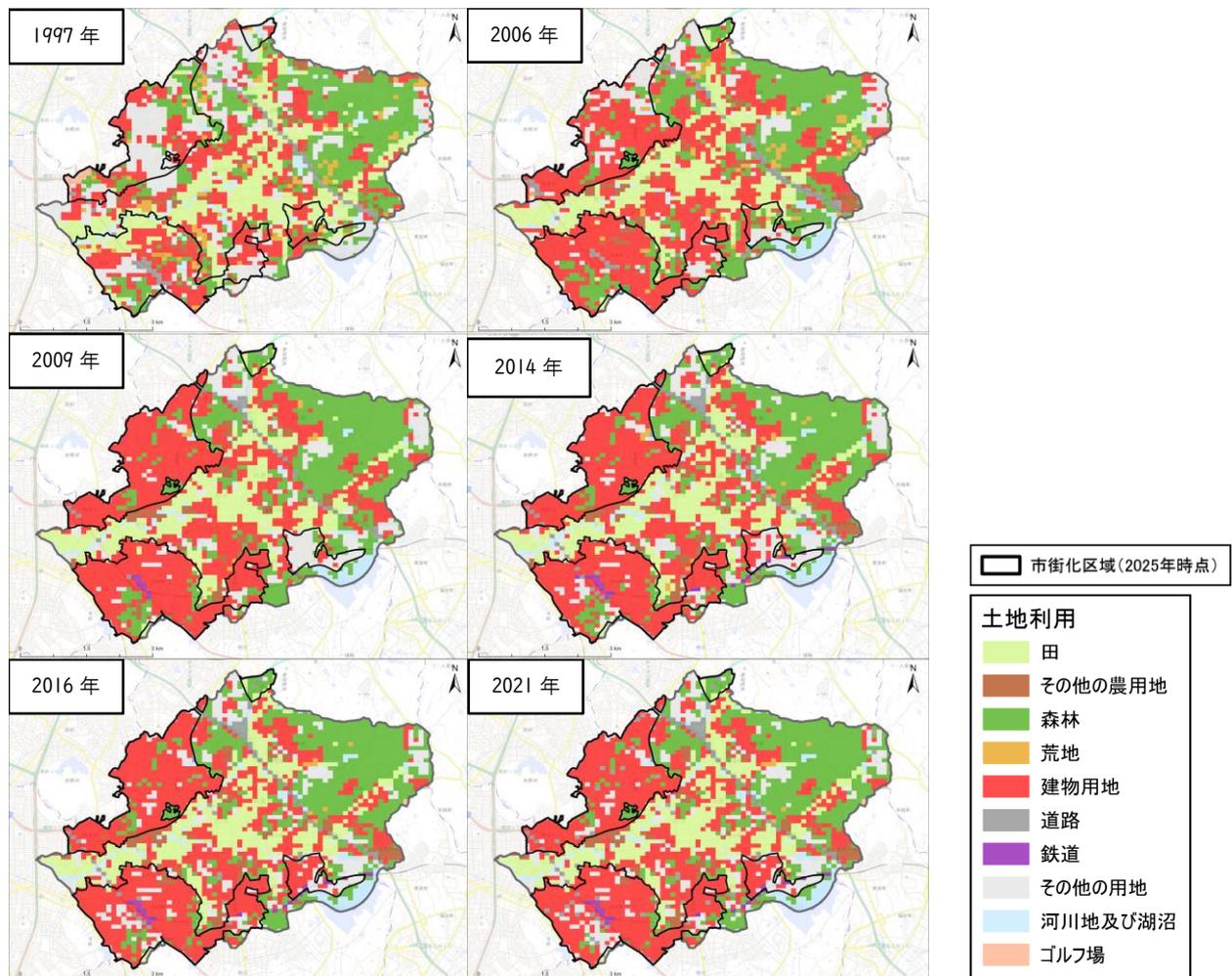
### (1) 土地利用の現状と動向

- 【現状】
- ・ 市街化区域は拡大しながら推移し、1970年に790haだった市街化区域面積は2019年には1,124haになりました。
  - ・ 土地利用状況では、1997年から2021年にかけて、香久山、岩崎台にてその他の用地から建物用地に変化しました。また、赤池駅や米野木駅周辺では田や森林から建物用地への変化が多くみられます。
  - ・ 市街化調整区域には、住宅地として開発された地区が多く存在しているため、建物用地が市街化調整区域に広く分布しています。
- 【将来】
- ・ 人口減少が見込まれる中で、建物用地等の都市的な土地利用が今後も拡大する場合、新たな公共投資や維持管理費の負担の増大が懸念されます。

表 1-1 市街化区域面積の推移

年月日	市街化区域面積(ha)
1970年11月24日	790
1979年3月2日	804
1984年4月4日	861
1991年9月4日	1,029
2001年5月15日	1,093
2019年3月29日	1,124

資料：日進市資料

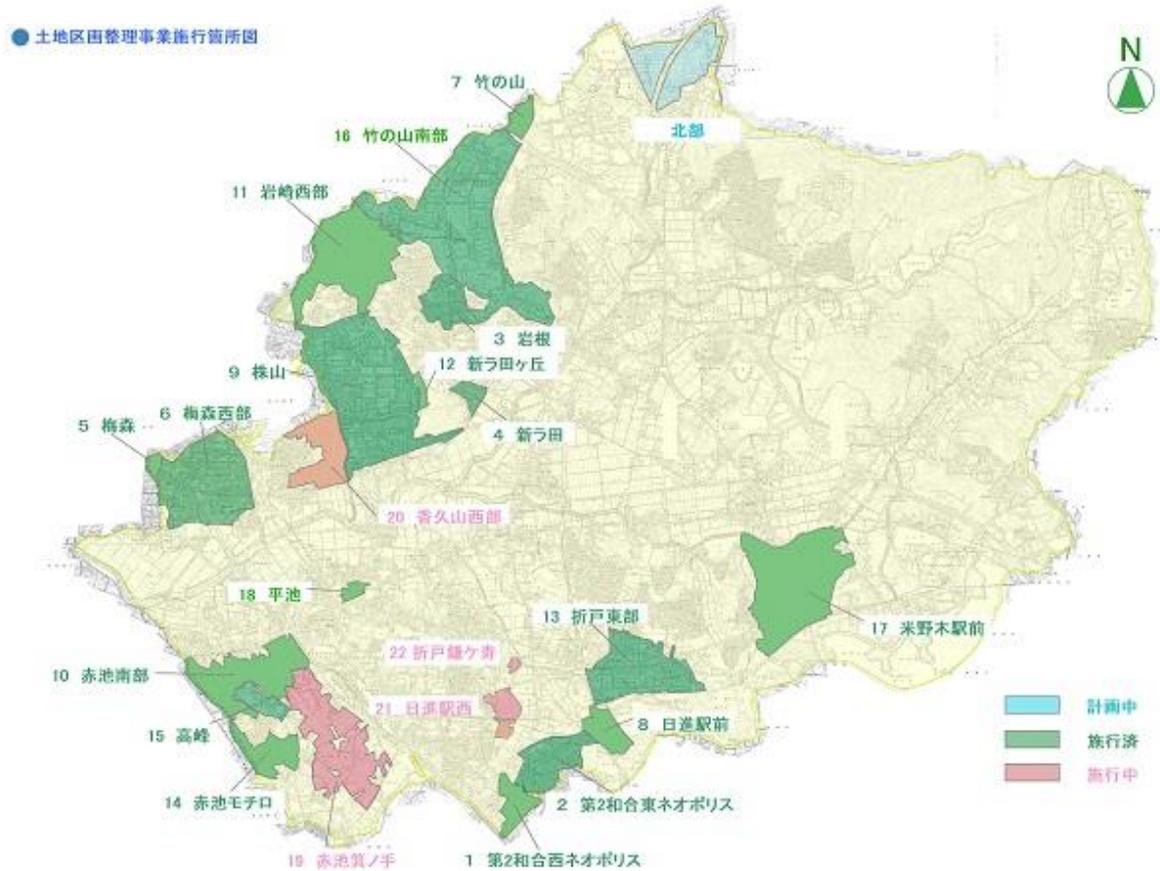


資料：国土地理院、国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ(1997年～2021年)

図 1-13 土地利用状況の推移

## (2) 土地区画整理事業

- 【現状】 ・ 本市には施行中の土地区画整理事業が4か所あります。
- ・ 愛知高速交通東部丘陵線（リニモ）長久手古戦場駅及び芸大通駅周辺の市街地整備に伴う施設立地が進む北部地区周辺については、土地区画整理事業が計画中です。
- 【将来】 ・ 土地区画整理事業が順次施行済となることで、事業地内において、道路・公園等の公共施設が整備・改善されるとともに宅地利用に伴う人口増加が見込まれます。



資料:日進市資料

図 1-14 土地区画整理事業施行箇所

表 1-2 土地区画整理事業一覧

施行区分	整理番号	施行者	地区名称	事業(設立)許可年月日	施行面積(ha)	事業年度
施行済	1	個人	第二和合西ネオポリス	1969.5.21	8.45	1969～1971
	2	個人	第二和合東ネオポリス	1969.6.11	17.52	1969～1971
	3	組合	岩根	1968.12.4	13.08	1968～1971
	4	組合	新ラ田	1971.2.3	3.76	1970～1974
	5	組合	梅森	1971.3.1	2.02	1970～1976
	6	組合	梅森西部	1974.11.20	44.59	1974～1981
	7	組合	竹の山	1981.1.30	4.99	1980～1987
	8	組合	日進駅前	1982.9.20	8.9	1982～1991
	9	公団	株山特定	1983.10.1	80.95	1983～1993
	10	組合	赤池南部特定	1977.1.12	31.8	1976～1995
	11	組合	岩崎西部	1982.3.23	44.04	1981～1996
	12	組合	新ラ田ヶ丘	1996.7.17	1.63	1996～1999
	13	組合	折戸東部	1986.12.3	32.37	1986～1999
	14	組合	赤池モチ口	1992.9.25	12.63	1992～2008
	15	組合	高峰	2003.1.17	7.14	2002～2009
	16	組合	竹の山南部特定	1993.7.5	95.7	1993～2013
	17	組合	米野木駅前特定	1995.9.6	54	1995～2017
	18	組合	平池	2008.7.29	2.19	2008～2012
施行済 18 地区					465.76	
施行中	19	組合	赤池箕ノ手	2010.3.12	40.56	2009～2026
	20	組合	香久山西部	2017.8.22	18.05	2017～2029
	21	組合	日進駅西	2020.3.24	6.84	2019～2027
	22	組合	折戸鎌ヶ寿	2022.3.18	0.91	2021～2026
施行中 4 地区					66.36	
計画中	23	組合	北部	2026(予定)	27.1	2026～(予定)
	計画中 1 地区					27.1

資料：日進市資料

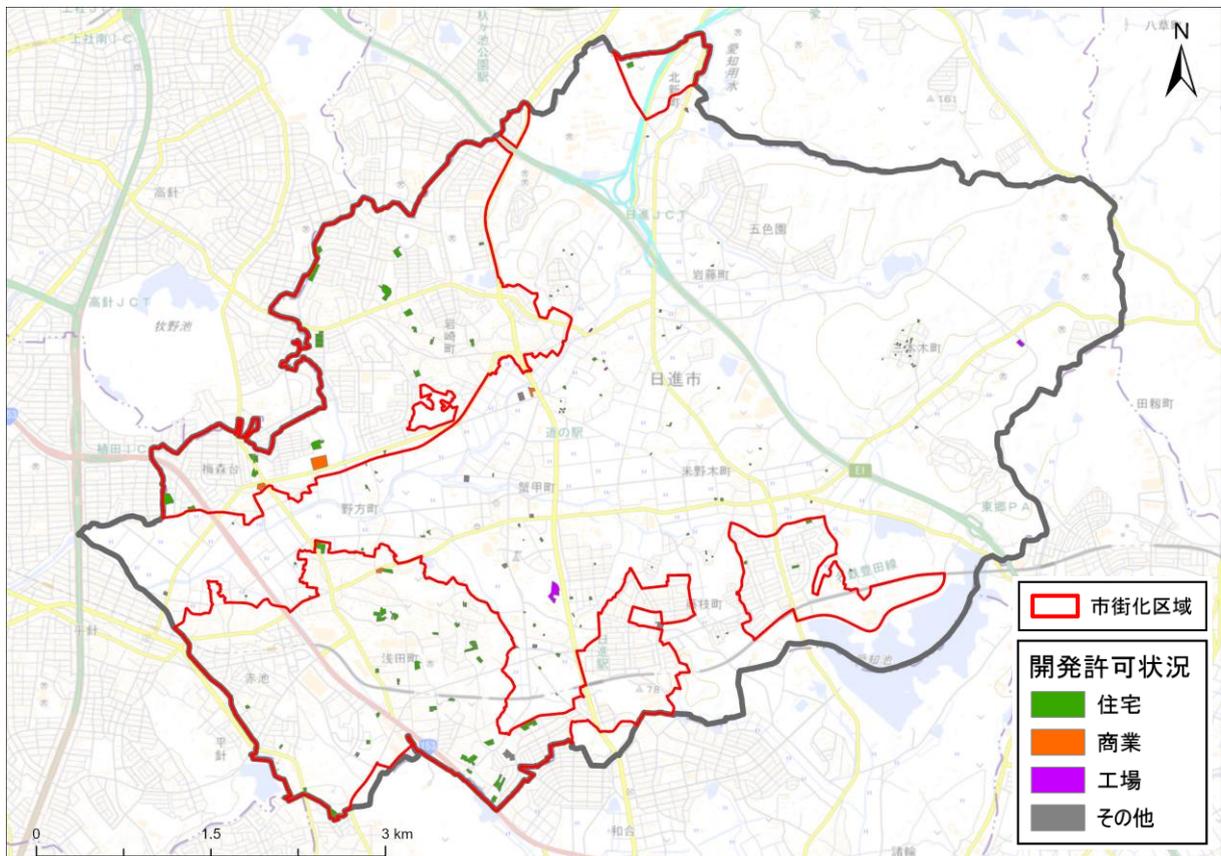
### (3) 開発の動向

- 【現状】
- ・ 2019 年度から 2023 年度にかけて、市街化区域の年間開発許可件数は、おおむね 15 件前後で推移しました。
  - ・ 市街化調整区域では、市街化区域と比較して、開発許可面積の総数は少なくなっていますが、開発許可件数の総数は多くなっています。
  - ・ どの区域においても件数、面積ともに住宅用途が多く、概ね全体の過半数以上を占めています。
- 【将来】
- ・ 市街化区域に限らず市街化調整区域においても、開発行為が行われていく可能性があります。
  - ・ 開発許可件数、面積ともに住宅用途が多い傾向が続く可能性があります。

表 1-3 開発許可件数・面積の推移

年度	住宅用途		商業用途		工業用途		観光レクリエーション用途		その他		総数	
	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)	件数 (件)	面積 (㎡)
2019	15	22,241	1	1,939	0	0	0	0	0	0	16	24,180
2020	12	33,409	0	0	0	0	0	0	1	5,000	13	38,409
2021	15	26,519	1	3,094	0	0	0	0	1	893	17	30,506
2022	10	26,689	1	13,211	0	0	0	0	0	0	11	39,900
2023	9	20,827	0	0	0	0	0	0	0	0	9	20,827
市街化区域計	61	129,685	3	18,244	0	0	0	0	2	5,893	66	153,822
2019	20	5,811	0	0	0	0	0	0	1	2,875	21	8,686
2020	17	4,636	1	500	2	861	0	0	4	5,153	24	11,150
2021	13	4,950	1	371	1	500	0	0	2	1,650	17	7,471
2022	19	8,524	0	0	0	0	0	0	1	3,000	20	11,524
2023	13	3,878	1	2,438	2	11,908	0	0	0	0	16	18,224
市街化調整区域計	82	27,799	3	3,309	5	13,269	0	0	8	12,678	98	57,055
総計	143	157,484	6	21,553	5	13,269	0	0	10	18,571	164	210,877

資料：日進市資料

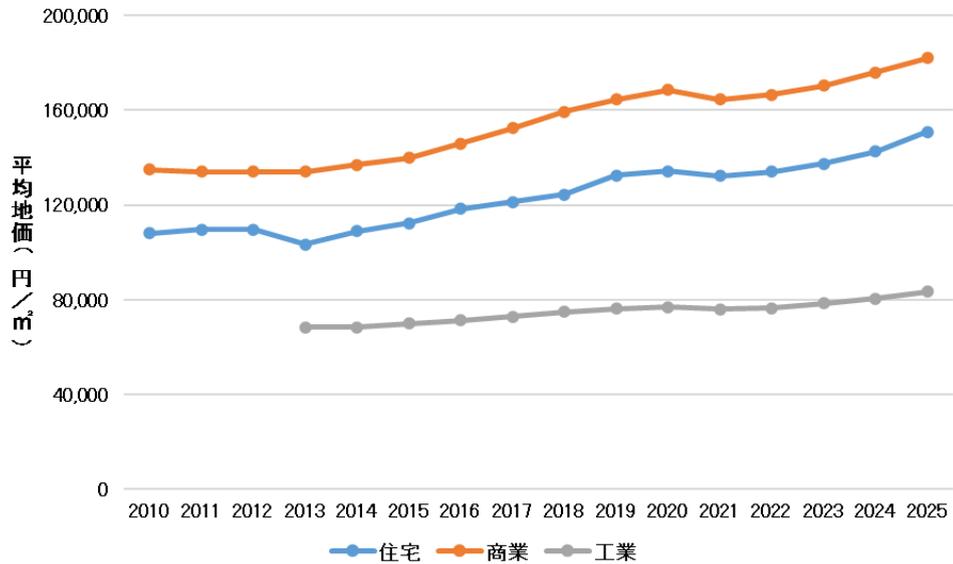


資料：国土地理院、都市計画基礎調査(2024年)

図 1-15 開発許可状況(2019 年～2023 年)

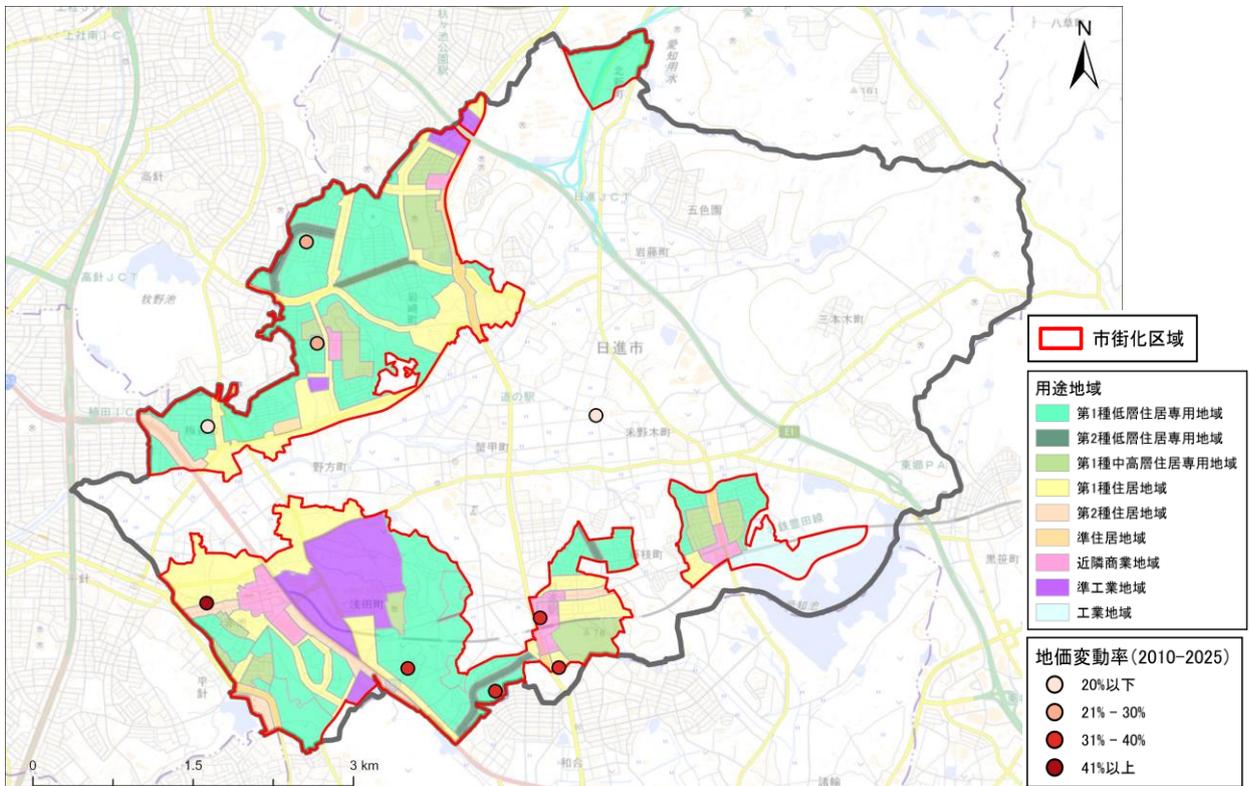
## (4) 地価

- 【現状】
- ・ 本市の地価は、住宅系、商業系、工業系ともに2013年から増加しています。
  - ・ 地点別の変化率で見ると、2010年から2025年にかけて、赤池駅や日進駅周辺で上昇率が高くなっています。
- 【将来】
- ・ 人口増加が見込まれる赤池駅や日進駅周辺では、今後も地価が上昇する可能性があります。



資料:国土交通省 地価公示データ(2010年~2025年)

図 1-16 用途別平均地価の推移

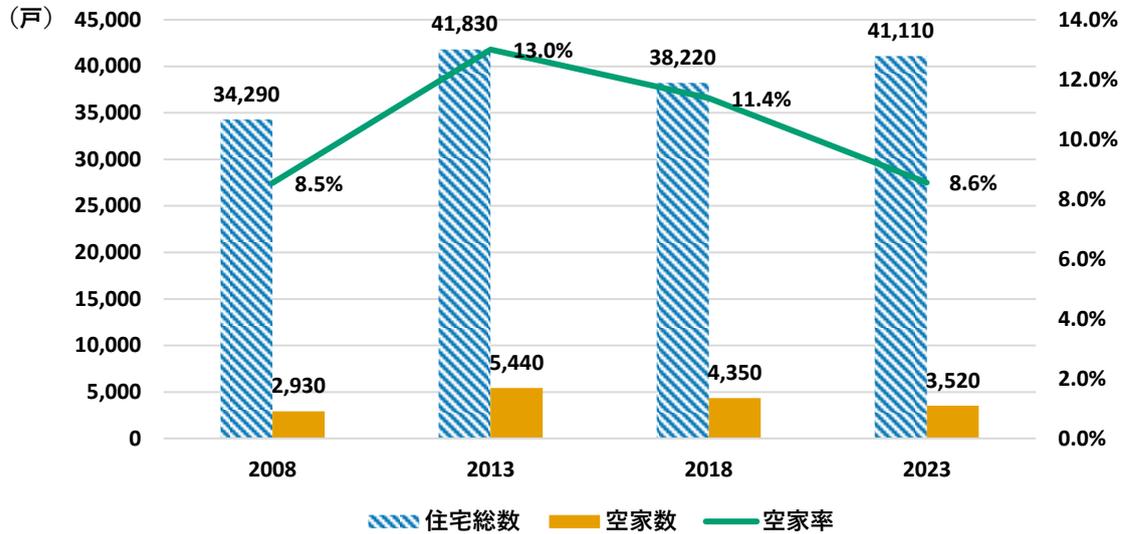


資料:国土地理院、国土数値情報 地価公示データ(2010年~2025年)

図 1-17 地価変動率(2010年⇒2025年)

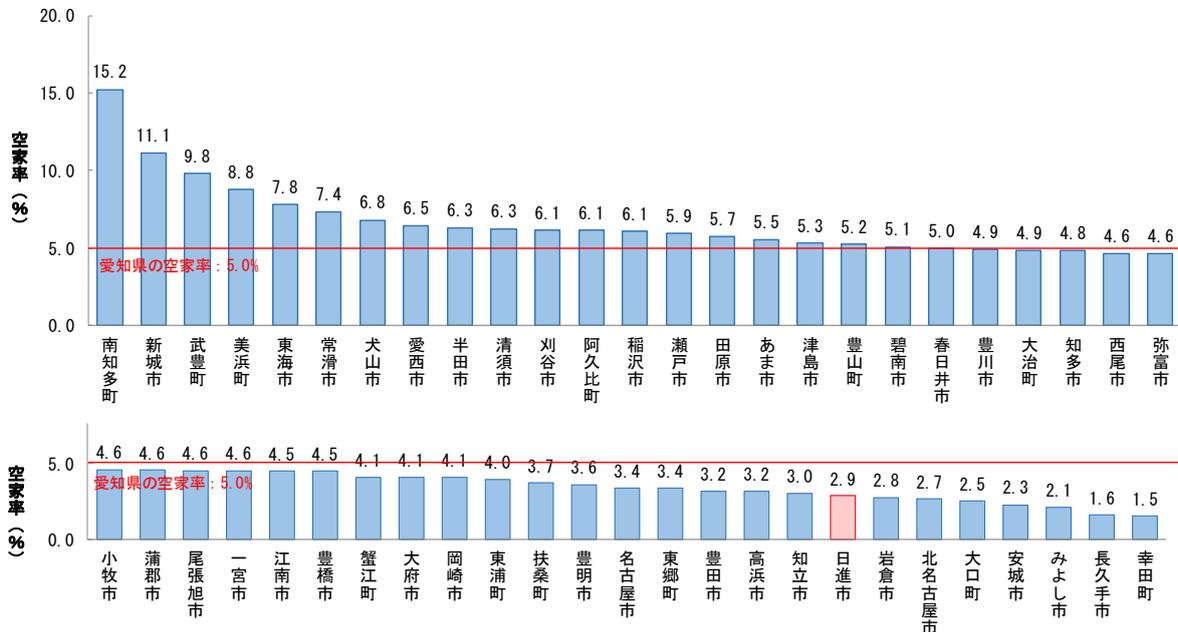
## (5) 空家の状況

- 【現状】
- ・ 市内の空家は、2013年までは増加していましたが、以降は減少に転じています。
  - ・ 2023年時点で空家数3,520戸、空家率8.6%となっています。
  - ・ 本市の「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空家」の空家率は、2.9%で、愛知県の空家率5.0%を下回っており、愛知県内自治体の中では43番目となっています。
- 【将来】
- ・ 人口減少に伴い、今後は空家数が増加していく可能性があります。

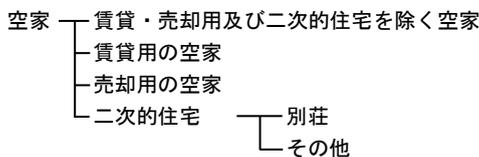


資料：住宅・土地統計調査(2008年～2023年)

図 1-18 空家状況の推移



※住宅・土地統計調査では、空家に関する調査を次の種類に分け実施。そのうち、空家等対策特措法における空家等に該当する空家である「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空家」による空家率を算出



資料：住宅・土地統計調査(2023年)

図 1-19 愛知県内自治体における「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空家」の空家率

## ■土地利用の課題

### 現状及び将来見通し

- ・これまで、土地区画整理事業、開発行為等によって市街化区域において、建物用地が拡大してきました。
- ・市街化調整区域においても住宅地として開発された地区が多く存在しているため、建物用地が市街化調整区域に広く分布しています。
- ・地価は住宅系、商業系、工業系ともに上昇しており、2010年と2025年の地価を比較すると、特に赤池駅や日進駅周辺で上昇率が高くなっています。
- ・将来的には、人口減少に伴い空家が増加する可能性があります。



### 課題

- 市街化区域の駅周辺や生活の拠点となるエリアの魅力を維持・向上させるために、適切な土地利用や効率的な都市機能の配置を図ることが必要
- 空家の適切な管理や有効活用が必要

### 3 公共交通

本市の公共交通は主なものとして鉄道とバスがあります。鉄道は、市南部に名古屋市、豊田市への都市間交通需要に対処する名古屋市営地下鉄鶴舞線、名古屋鉄道豊田線が運行しています。市外北部には名古屋市、豊田市への都市間交通需要に対処する愛知高速交通東部丘陵線（リニモ）が運行しています。

バスは、路線バスとして、名鉄バス及び名古屋市営バス、コミュニティバスとして、日進市内巡回バス（以下「くるりんバス」とする。）が運行しています。

#### (1) 鉄道

##### ア. 運行状況

- 【現状】
- ・ 鉄道の1日当たりの運行本数（※1）は、名古屋市営地下鉄鶴舞線は297本、名古屋鉄道豊田線は158本、愛知高速交通東部丘陵線（リニモ）は262本です。
  - ・ 都市間交通需要について、名古屋市や豊田市へは市南部から名古屋市営地下鉄鶴舞線や名古屋鉄道豊田線、市外北部の長久手市から愛知高速交通東部丘陵線（リニモ）が対応しています。

- 【将来】
- ・ 人口減少が進むことで、運行本数に影響する可能性があります。

表 1-4 鉄道の運行状況(2024年12月現在)

路線名	運行本数※1	運行時間帯	
	(本/日)	始発※2	終着※2
名古屋市営地下鉄鶴舞線	297	5:30	0:29
名古屋鉄道豊田線	158	5:48	0:10
愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)	262	5:35	0:12

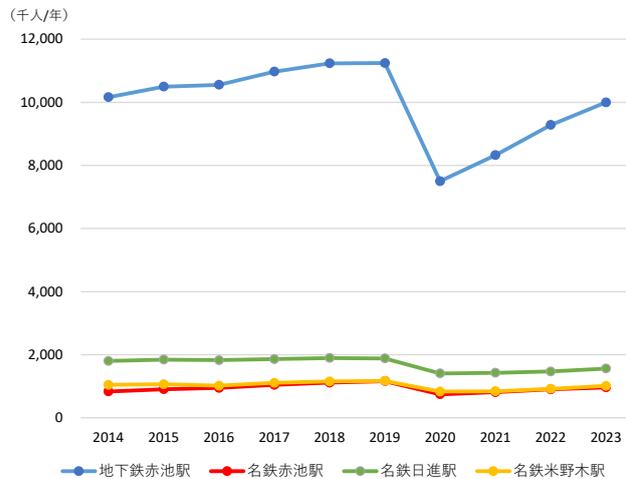
資料:名古屋市交通局、名古屋鉄道、愛知高速交通 各HP

※1.運行本数は、名古屋市営地下鉄鶴舞線では赤池駅、名古屋鉄道豊田線では日進駅、愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)は長久手古戦場駅での平日の発着本数の合計

※2.始発・終着は、名古屋市営地下鉄鶴舞線及び名古屋鉄道豊田線では赤池駅、愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)は長久手古戦場駅での時刻(平日)

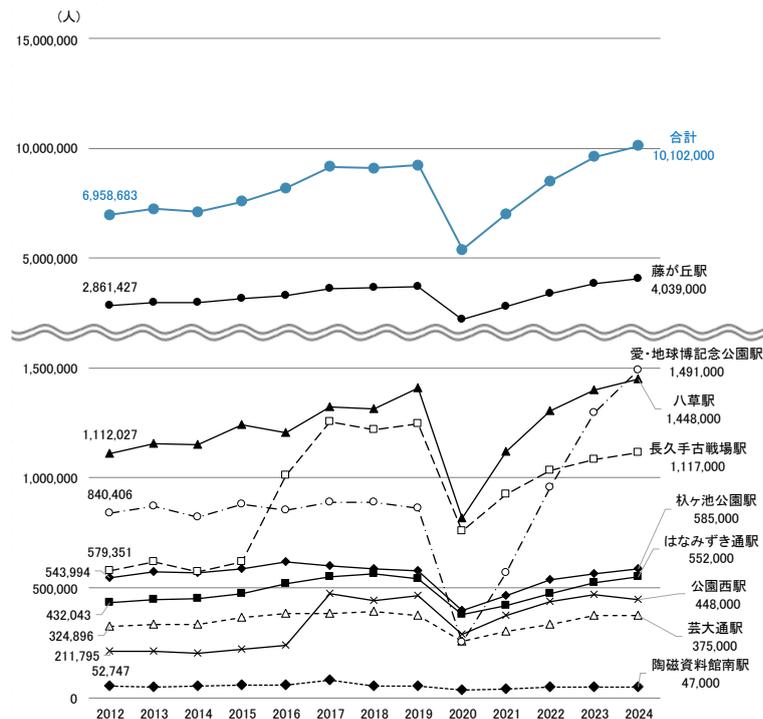
## イ. 利用状況

- 【現状】
- ・ 鉄道の2023年の乗客数は、赤池駅が最も多く、次いで、日進駅となっています。
  - ・ 各駅の乗降客数の変化をみると、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、2020年に減少しましたが、以降は回復傾向にあります。
  - ・ 愛知高速交通東部丘陵線（リニモ）の利用者数も、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、各駅とも2020年に大きく減少しましたが、以降は回復傾向にあります。
  - ・ 特に、2022年11月に開園したジブリパークがある愛・地球博記念公園駅で利用者が大きく増加しています。
- 【将来】
- ・ 自動車の運転が困難になる高齢者の増加により、鉄道の重要性が高まる可能性があります。
  - ・ 年少人口と生産年齢人口の減少により、通勤や通学を目的とした鉄道需要が変わる可能性があります。



資料：日進市オープンデータ(2024年12月時点)

図 1-20 鉄道各駅の乗客数



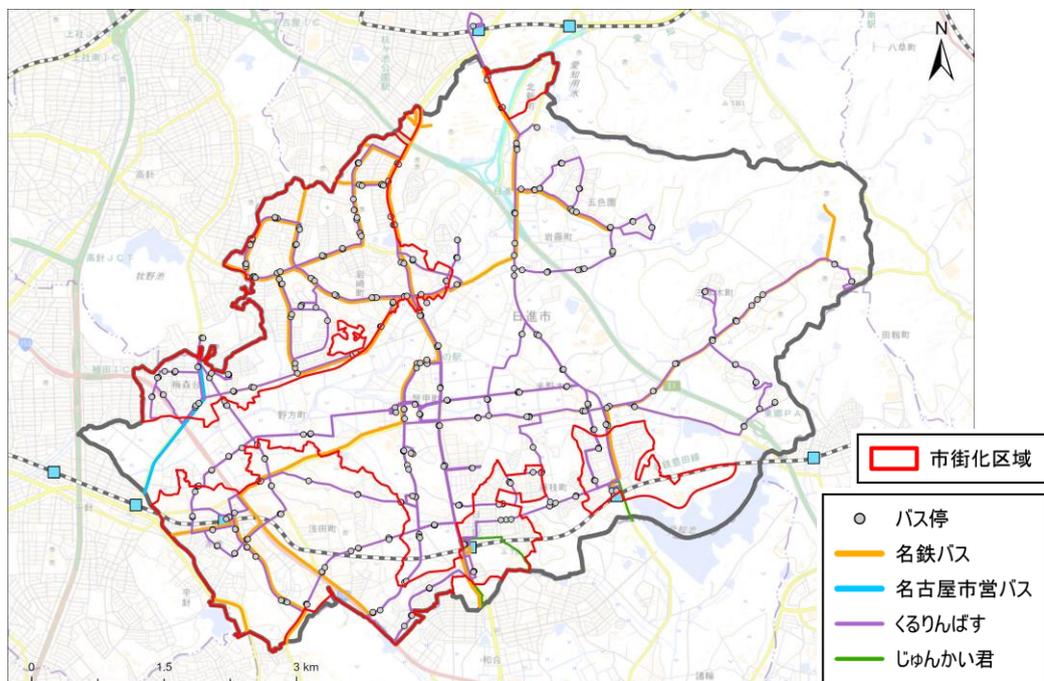
資料：愛知高速交通株式会社

図 1-21 愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)の利用者数

## (2) バス

### ア. 運行状況

- 【現状】
- ・ バス路線網は市内縦横に整備されており、市内の鉄道駅に連絡しているものや市外に連絡しているものがあります。
  - ・ 名鉄バス岩藤線は、本市と名古屋市（星ヶ丘駅）を結ぶ都市間交通需要に対応する基幹的バスとして運行されています。
  - ・ 名鉄バス日進中央線は、赤池駅を起点として長久手市（長久手古戦場駅）までを結んでおり、市内の南北移動の軸となっています。
  - ・ くるりんばすは、市内外の鉄道駅と主要施設や各地域をきめ細かく連絡する生活交通として運行されています。
  - ・ 長久手市では「N-バス」が、東郷町では「じゅんかい君」がそれぞれコミュニティバスとして運行されており、長久手古戦場駅、日進駅、米野木駅においてくるりんばすと結節しています。
- 【将来】
- ・ 人口減少が進むことにより、バス路線や運行本数に影響する可能性があります。

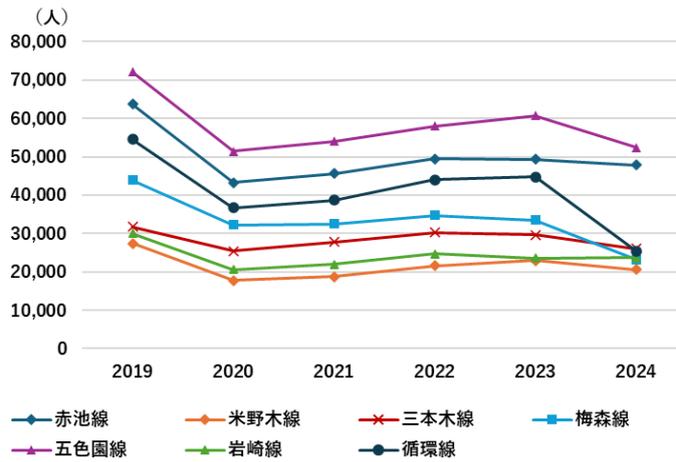


資料：国土地理院、日進市資料(2025年10月時点)

図 1-22 バス路線図

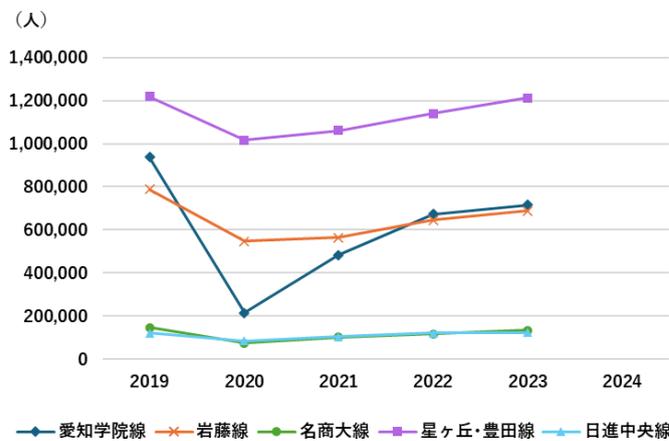
## イ. 利用状況

- 【現状】
- ・ くるりんばすの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、2020年に減少しましたが、その後は徐々に回復傾向にありました。しかし、2024年4月の路線改正の影響もあり、2024年の利用者数は前年の約83%にとどまりました。
  - ・ 名鉄バスの利用者数も、新型コロナウイルス感染症の流行等の影響により、2020年には大きく減少しましたが、以降は各路線で回復傾向にあります。
- 【将来】
- ・ 自動車の運転が困難になる高齢者の増加により、生活の足として欠かせないバスの重要性が高まることが想定されます。



資料:日進市資料

図 1-23 くるりんばす 路線別利用者数の推移



資料:日進市資料

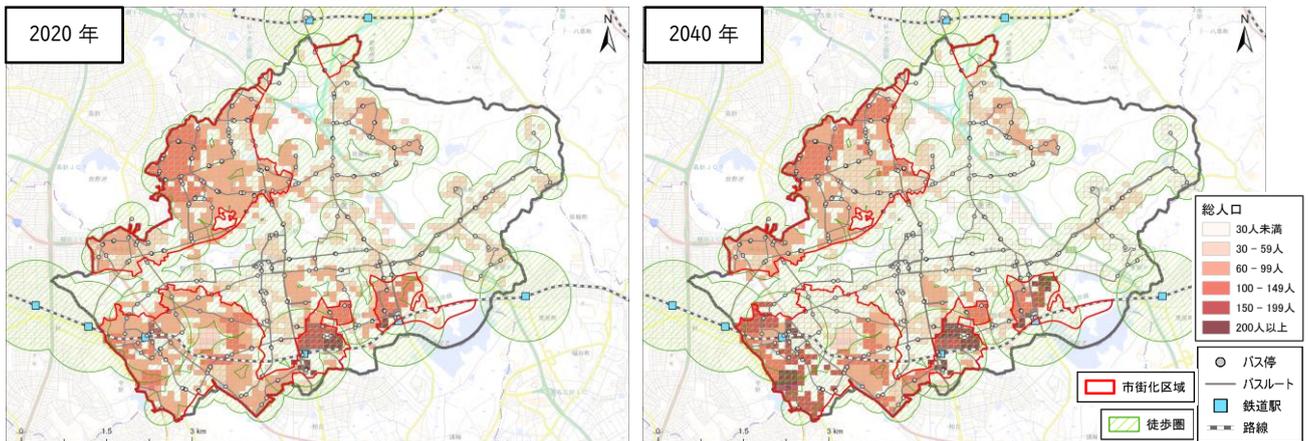
図 1-24 名鉄バス 路線別利用者数の推移

### (3) 公共交通の徒歩圏と人口分布

#### ア. 人口

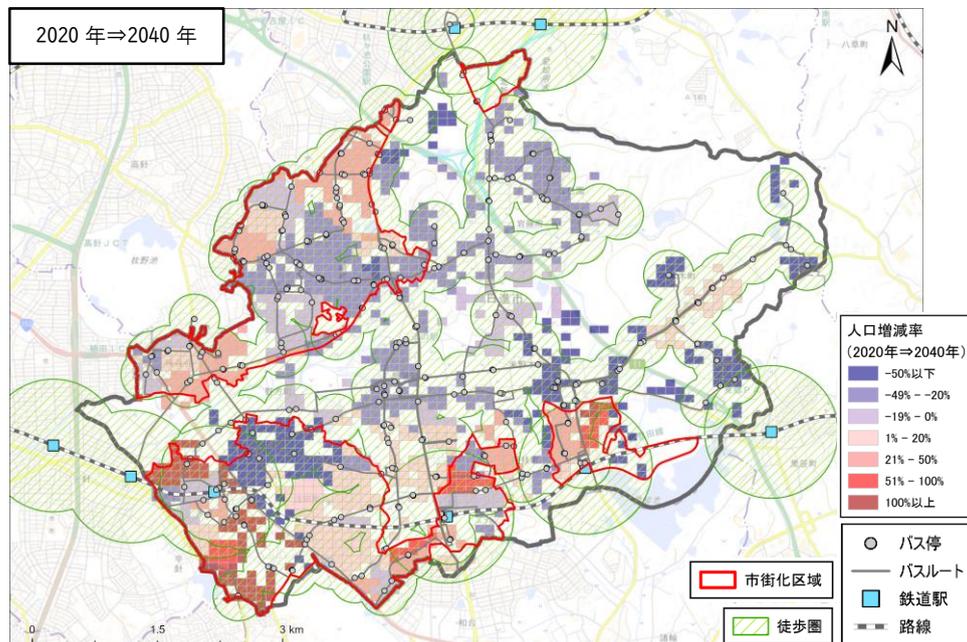
- 【現状】 ・ 公共交通の徒歩圏は、人口が多く分布している市街化区域のほぼ全域をカバーしています。
- ・ 市街化調整区域においても、人口が分布している地域を概ねカバーしています。
- 【将来】 ・ 現在の公共交通が 2040 年においても維持されていれば、市街化区域及び市街化調整区域のどちらの人口も徒歩圏で概ねカバーできる見込みです。

※公共交通の徒歩圏：バス停 300m、鉄道駅 800m



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市公共交通ガイドブック(2025 年 10 月改訂)、名鉄バス株式会社

図 1-25 公共交通の徒歩圏と人口分布図(左:2020 年 右:2040 年)

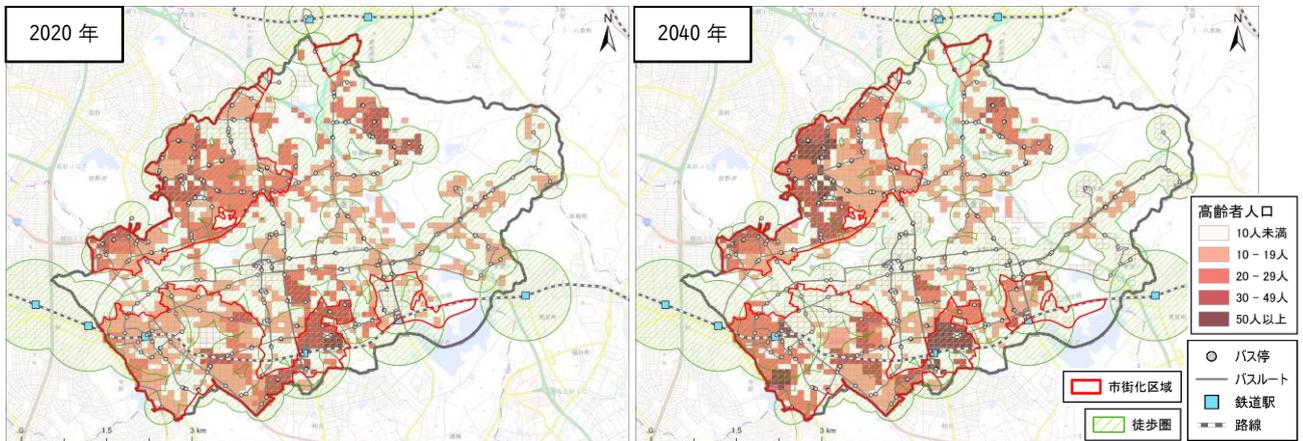


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市公共交通ガイドブック(2025 年 10 月改訂)、名鉄バス株式会社

図 1-26 公共交通の徒歩圏と人口増減(2020 年⇒2040 年)

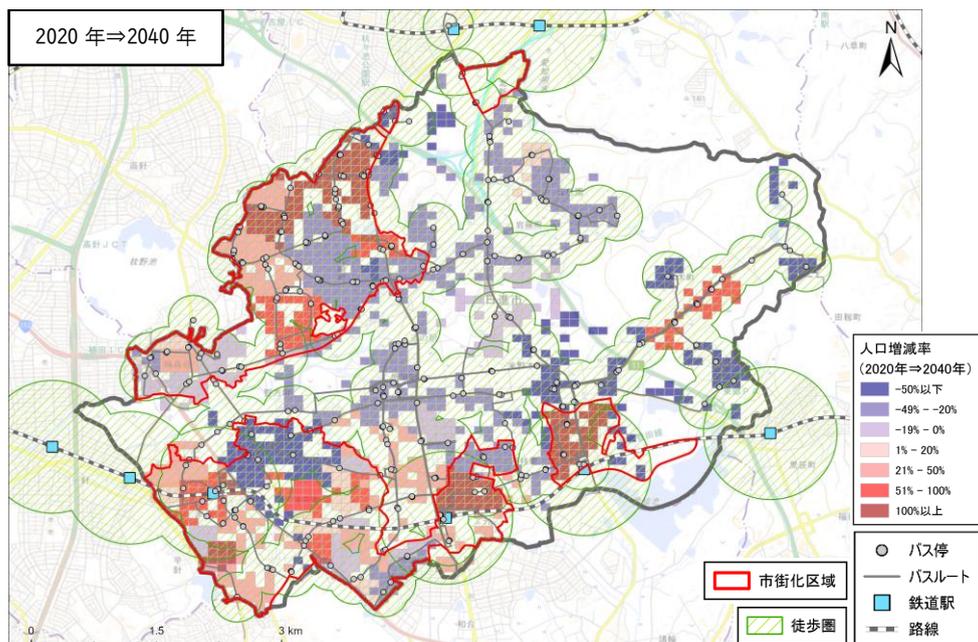
## イ. 高齢者人口

- 【現状】 ・ 公共交通の徒歩圏は、高齢者人口が多く分布している地域を概ねカバーしています。
- 【将来】 ・ 現在の公共交通が 2040 年においても維持されていれば、高齢化が見込まれる地域、高齢者が多い地域の人口を徒歩圏で概ねカバーできる見込みです。
- ・ 2020 年から 2040 年にかけて高齢化が進むと見込まれる地域のうち、浅田平子の一部では公共交通の徒歩圏外となっています。



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市公共交通ガイドブック(2025 年 10 月改訂)、名鉄バス株式会社

図 1-27 公共交通の徒歩圏と高齢者人口分布図(左:2020 年 右:2040 年)

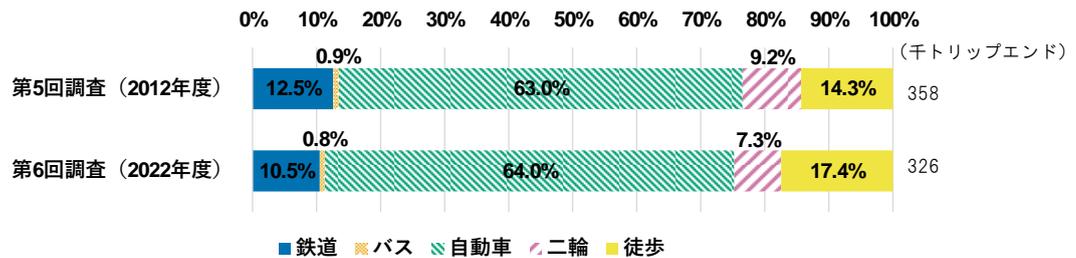


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市公共交通ガイドブック(2025 年 10 月改訂)、名鉄バス株式会社

図 1-28 公共交通の徒歩圏と高齢者人口増減(2020 年⇒2040 年)

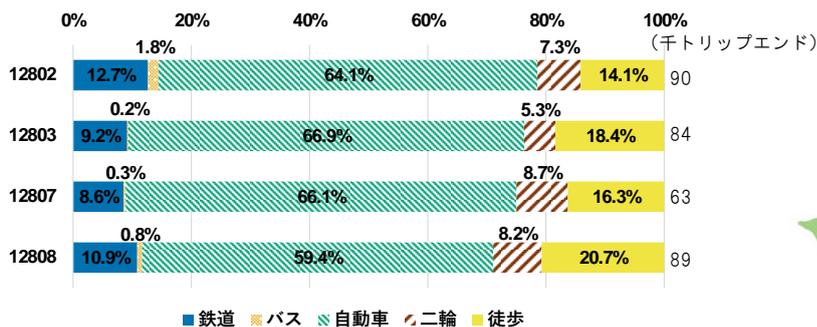
## (4) 市民の移動手段

- 【現状】
- ・ 2022 年度における本市の代表交通手段は、自動車が多く6割以上を占めます。次いで徒歩、鉄道となっています。
  - ・ 鉄道・バスの公共交通での移動は、合わせて1割程度にとどまります。
  - ・ 地域別にみると、市役所等が集積している市の中心部や、開発から年数が経過した住宅団地が分布する北東部では自動車利用の占める割合が、岩崎町や竹の山等の北西部では鉄道利用の占める割合が、他のゾーンと比較して多くなっています。
- 【将来】
- ・ 自動車利用率が高いため、運転が困難になる高齢者が利用しやすい公共交通の必要性が高まる可能性があります。



資料: 中京都市圏パーソントリップ調査(第5回、第6回)

図 1-29 代表交通手段別トリップ構成(全市)



資料: 中京都市圏パーソントリップ調査(第6回)

図 1-30 代表交通手段別トリップ構成(地域別)

## (5) 通勤・通学の状況

- 【現状】
- ・ 通勤者は、名古屋市への流出が大きく超過しているほか、豊田市、みよし市でも流出が超過しています。
  - ・ 通学者は、名古屋市、みよし市、東郷町からの流入が超過しています。
- 【将来】
- ・ 通勤者、通学者による人口流動を踏まえた公共交通を維持していく必要があります。

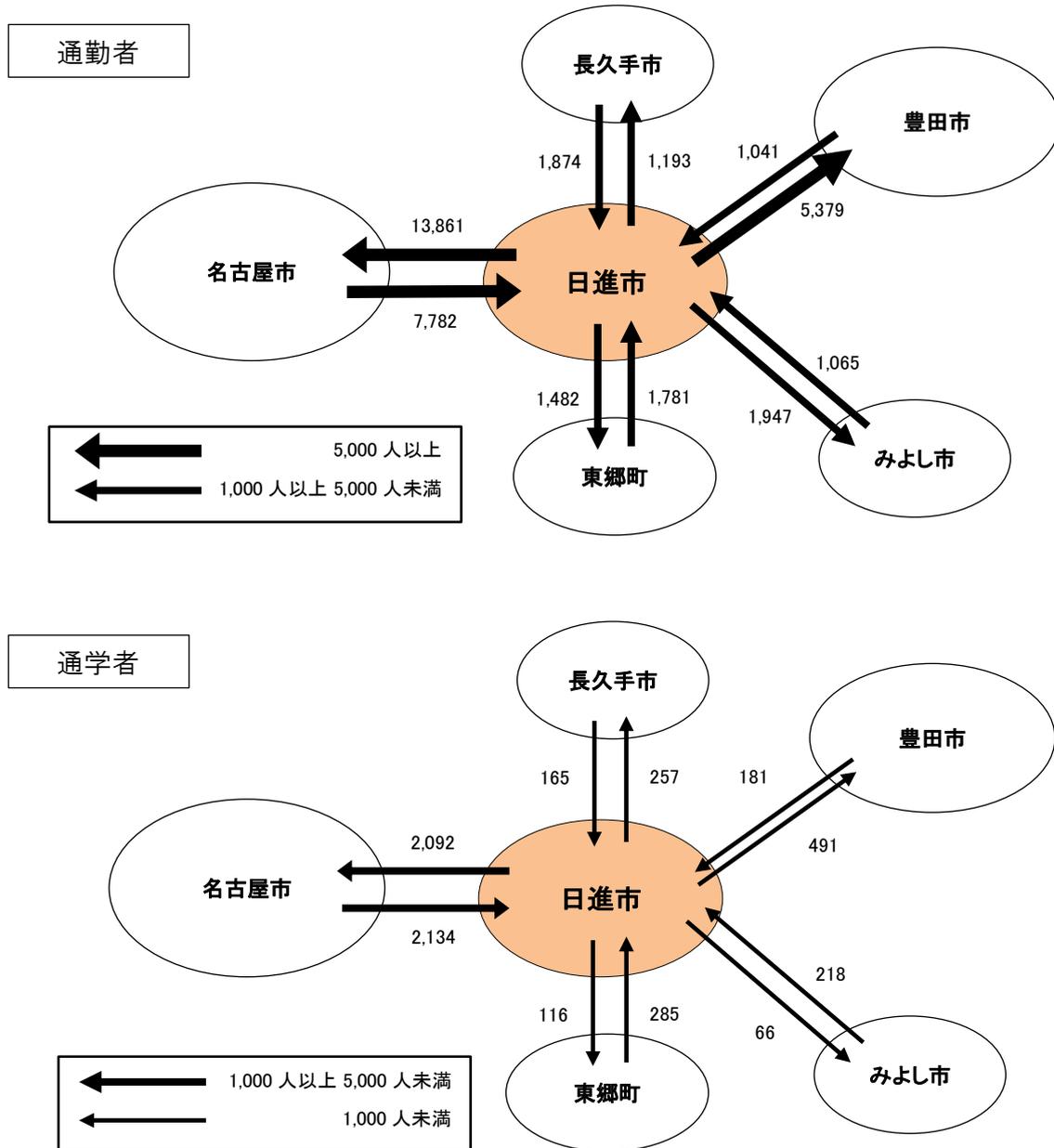


図 1-31 通勤者・通学者の流入先及び流出先(主な都市)

## ■公共交通の課題

### 現状及び将来見通し

- ・現在の公共交通が 2040 年においても維持されていれば、市街化区域及び市街化調整区域のどちらの人口も徒歩圏で概ねカバーできる見込みです。
- ・高齢化が見込まれる地域、高齢者が多い地域においても、徒歩圏で概ねカバーできる見込みです。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行等の影響で、2020 年に鉄道やバスの利用者数は大きく減少しましたが、その後はいずれも徐々に回復傾向にあります。一方で、くるりんばすについては、2024 年 4 月に路線改正を行った影響もあり、2024 年の利用者数は前年より減少しています。
- ・将来的な人口減少に伴い、鉄道の運行本数やバスの路線・運行本数に影響が出る可能性があります。
- ・代表交通手段は、自動車が最も多く 6 割以上を占め、鉄道・バスの公共交通は 1 割程度にとどまります。



### 課題

- 人口減少下においても、引き続き必要となる公共交通については、維持・利用促進が必要
- 高齢者等の配慮が必要な人々の移動手手段の確保が必要

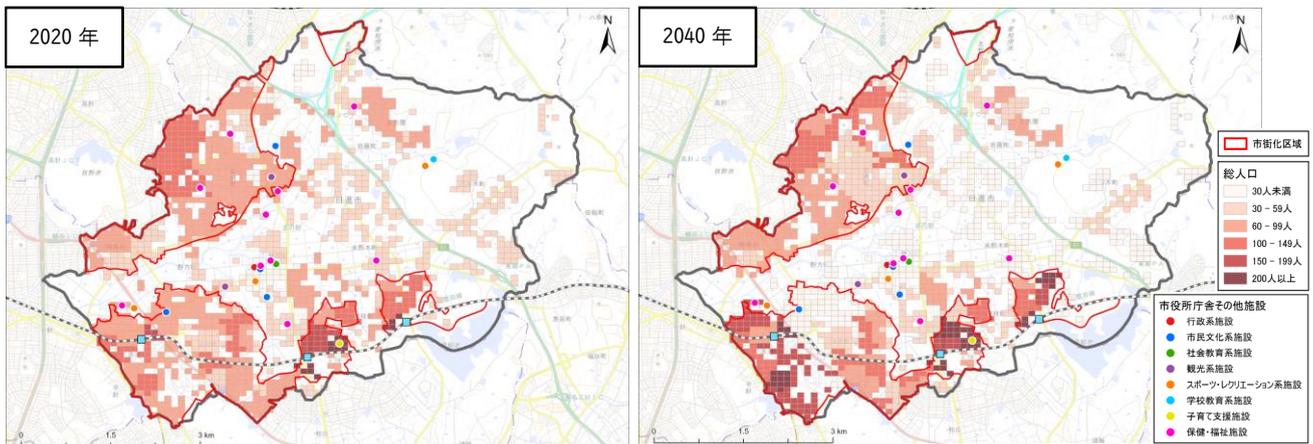
## 4 都市機能

### (1) 市役所庁舎その他施設

- 【現状】 ・ 市役所庁舎その他施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。  
 ・ 市街化調整区域であるものの、市の中心部には市役所庁舎等の公共施設が集積しています。
- 【将来】 ・ 市役所庁舎その他施設周辺の多くの地域では、2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれます。

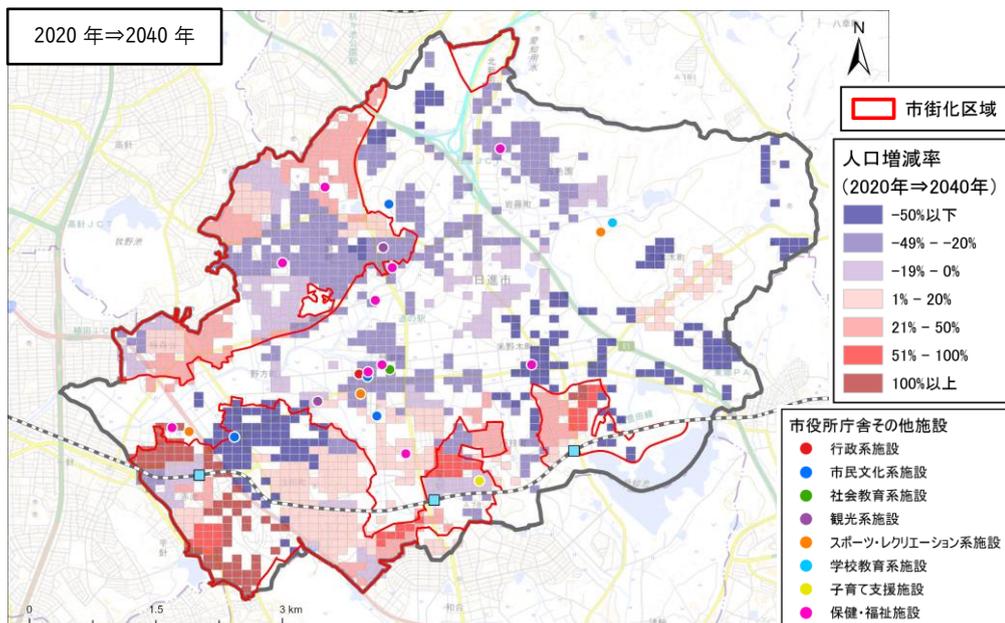
※市役所庁舎その他施設

項目	施設
行政系施設	本庁舎、北庁舎、南庁舎
市民文化系施設	にぎわい交流館、市民会館、生涯学習プラザ、ふれあい工房
社会教育系施設	図書館
観光系施設	岩崎城歴史記念館等、旧市川家住宅、道の駅マチテラス日進
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツセンター、総合運動公園、上納池スポーツ公園
学校教育系施設	教育支援センター
子育て支援施設	にしん子育て総合支援センター
保健・福祉施設	高齢者生きがい活動センター、障害者福祉センター、保健センター、福祉会館、中央福祉センター



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料

図 1-32 市役所庁舎その他施設の位置と人口分布(左:2020年 右:2040年)



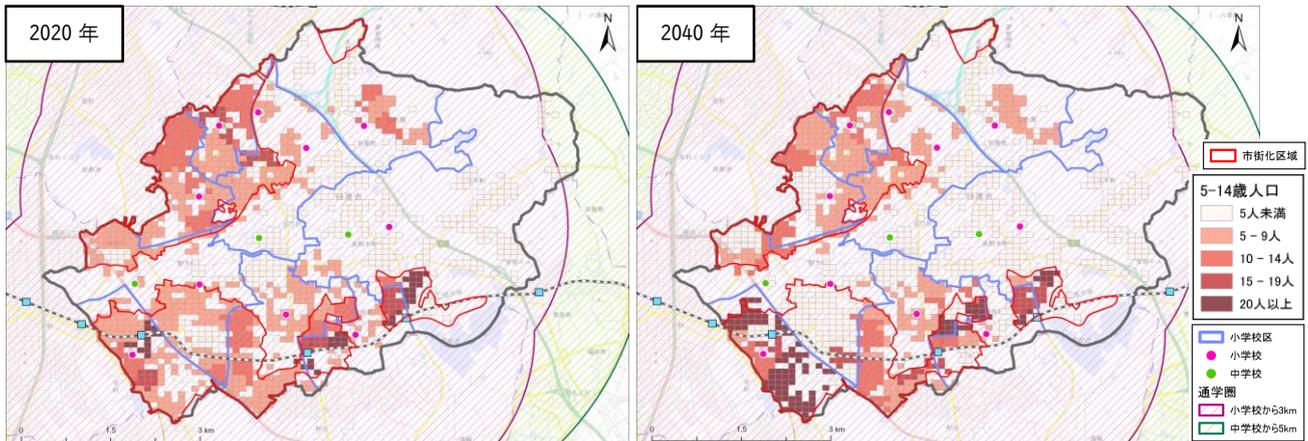
資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料

図 1-33 市役所庁舎その他施設の位置と人口増減(2020年⇒2040年)

## (2) 小中学校

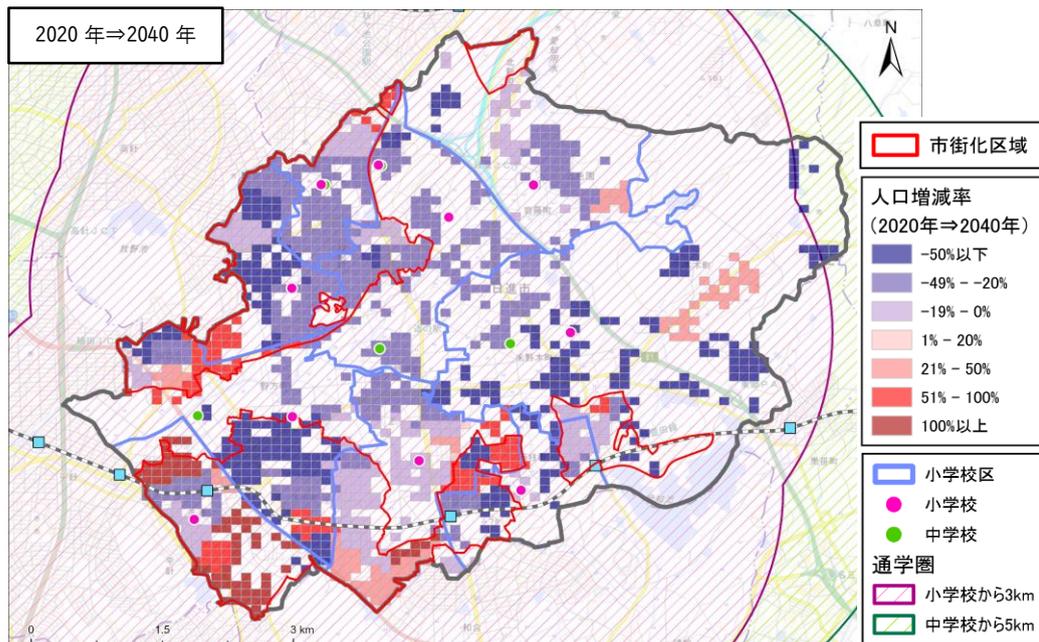
- 【現状】
- ・ 小中学校は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
  - ・ 小学校通学圏※は、概ねカバーできていますが、米野木町三ヶ峯の一部の地域でバス利用を含めた通学となっています。一方で、中学校通学圏※は、市全域をカバーしています。
- 【将来】
- ・ 小中学校周辺の多くの地域では、2020年から2040年にかけて5-14歳人口減少が見込まれます。

※ 通学圏：小学校 3km、中学校 5km



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料

図 1-34 小中学校の通学圏と5-14歳人口分布(左:2020年 右:2040年)



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料

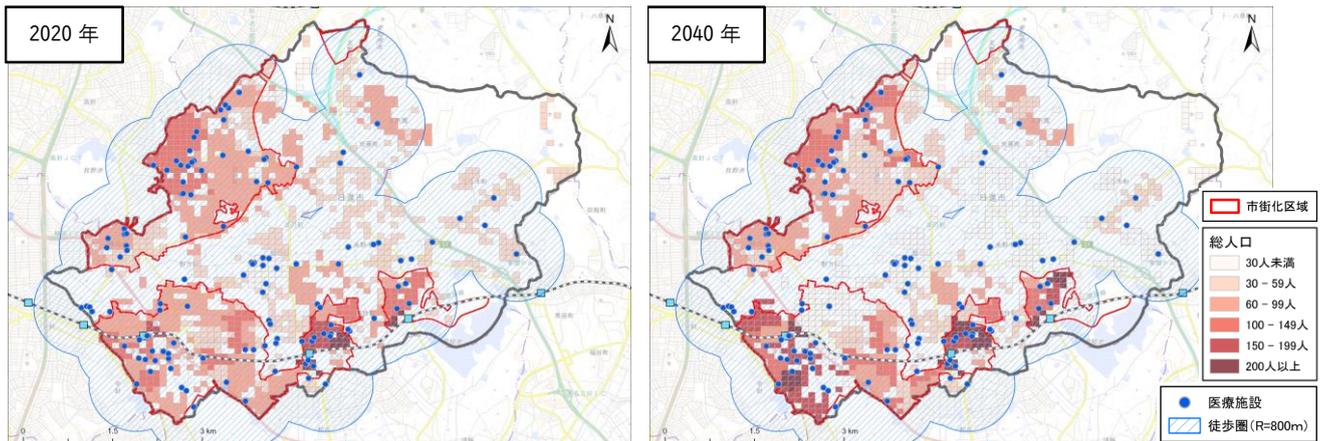
図 1-35 小中学校の通学圏と5-14歳人口増減(2020年⇒2040年)

### (3) 医療

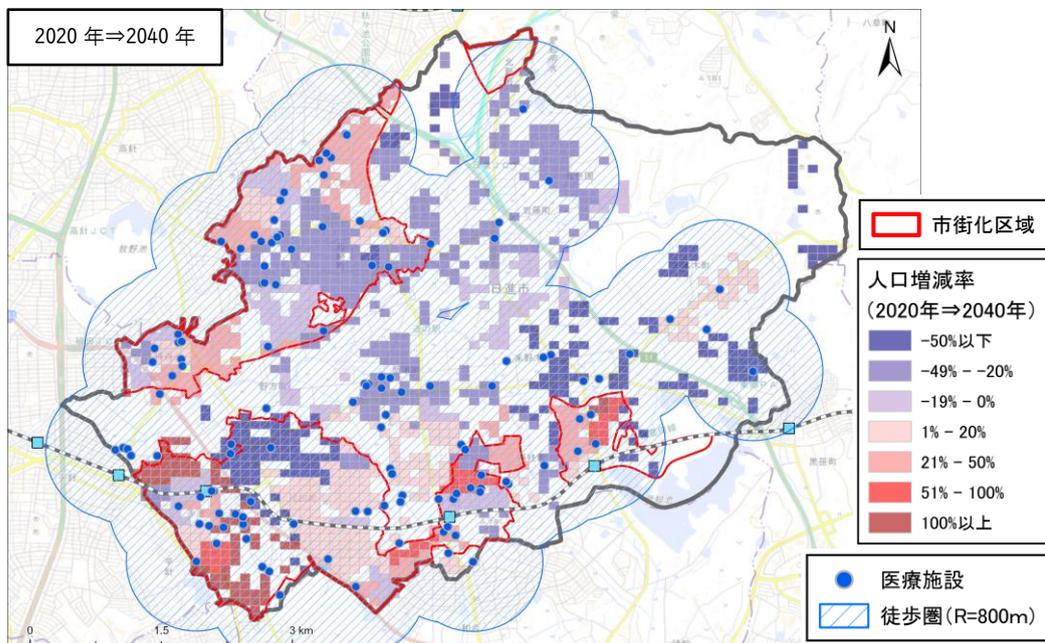
#### ア. 人口

- 【現状】
- ・ 医療施設※は、人口が集中している市街化区域に多く立地していますが、市街化調整区域にも広く分布しています。
  - ・ 医療施設の徒歩圏は、市の人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の医療施設の徒歩圏が 2040 年においても維持されていれば、市の人口を概ねカバーできる見込みです。
  - ・ 市街化調整区域における医療施設の徒歩圏では、2020 年から 2040 年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※医療施設：病院及び診療所



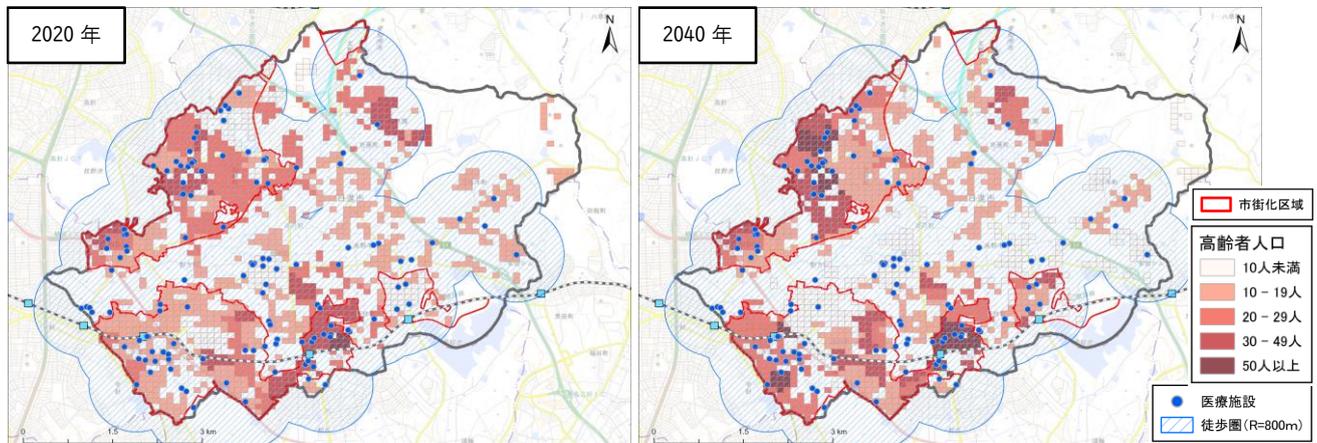
資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-36 医療施設の徒歩圏と人口分布(左:2020 年 右:2040 年)



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-37 医療施設の徒歩圏と人口増減(2020 年⇒2040 年)

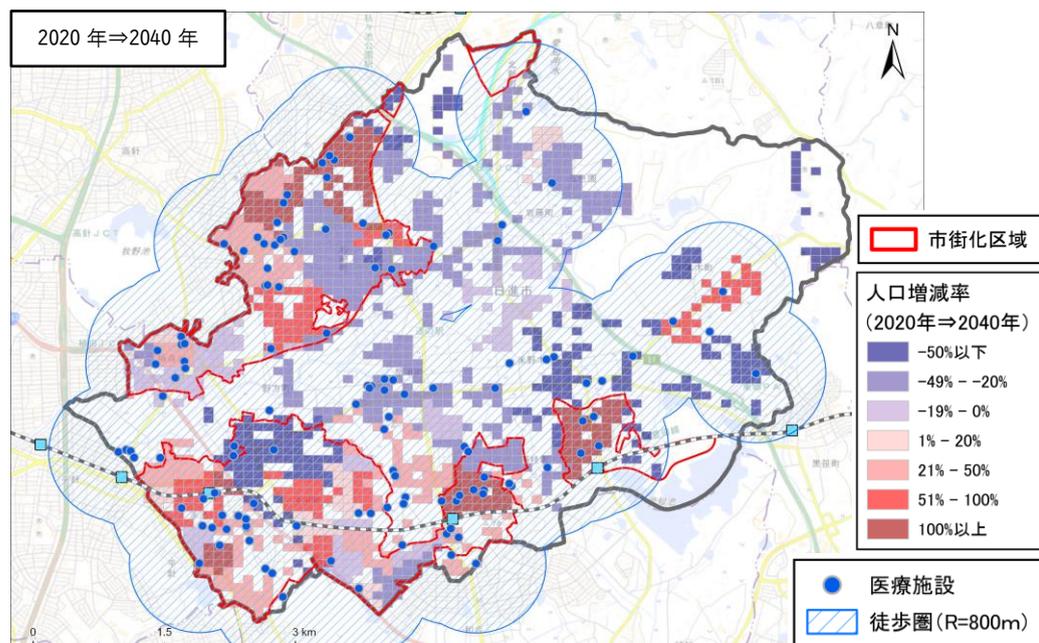
## イ. 高齢者人口

- 【現状】 ・ 医療施設の徒歩圏は、高齢者人口を概ねカバーしています。
- 【将来】 ・ 現在の医療施設の徒歩圏が 2040 年においても維持されていれば、市の高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-38 医療施設の徒歩圏と高齢者人口分布(左:2020年 右:2040年)



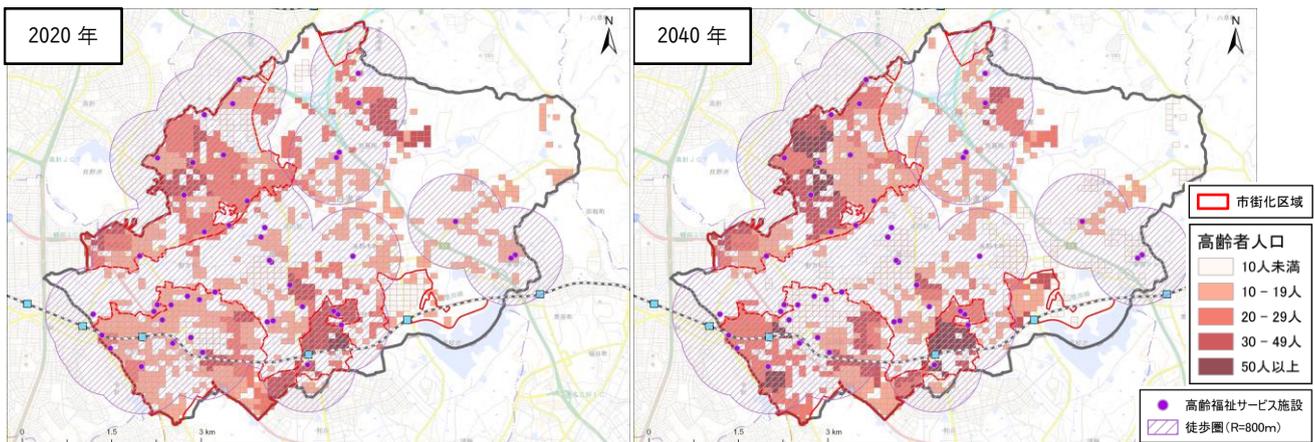
資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-39 医療施設の徒歩圏と高齢者人口増減(2020年⇒2040年)

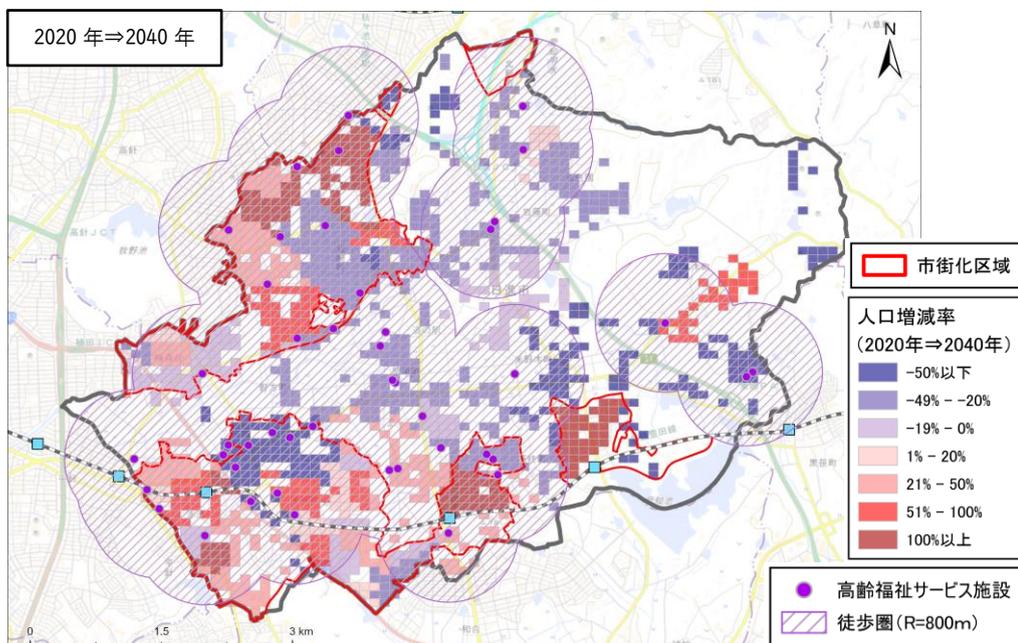
## (4) 高齢福祉

- 【現状】
- ・ 高齢福祉サービス施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
  - ・ 高齢福祉サービス施設の徒歩圏は、市の高齢者人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の高齢福祉サービス施設の徒歩圏が 2040 年においても維持されていれば、市の高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。
  - ・ 高齢者人口の増加が見込まれる米野木駅周辺や三本木町等の一部の地域では、高齢福祉サービス施設の徒歩圏外となる可能性があります。
  - ・ 高齢福祉サービス施設の徒歩圏では、ほとんどの市街化調整区域に加え、浅田町、岩崎町、東山等で 2020 年から 2040 年にかけて高齢者人口の減少が見込まれるところがあります。

※高齢福祉サービス施設：通所系・訪問系・小規模多機能型



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-40 高齢福祉サービス施設の徒歩圏と高齢者人口分布(左:2020 年 右:2040 年)

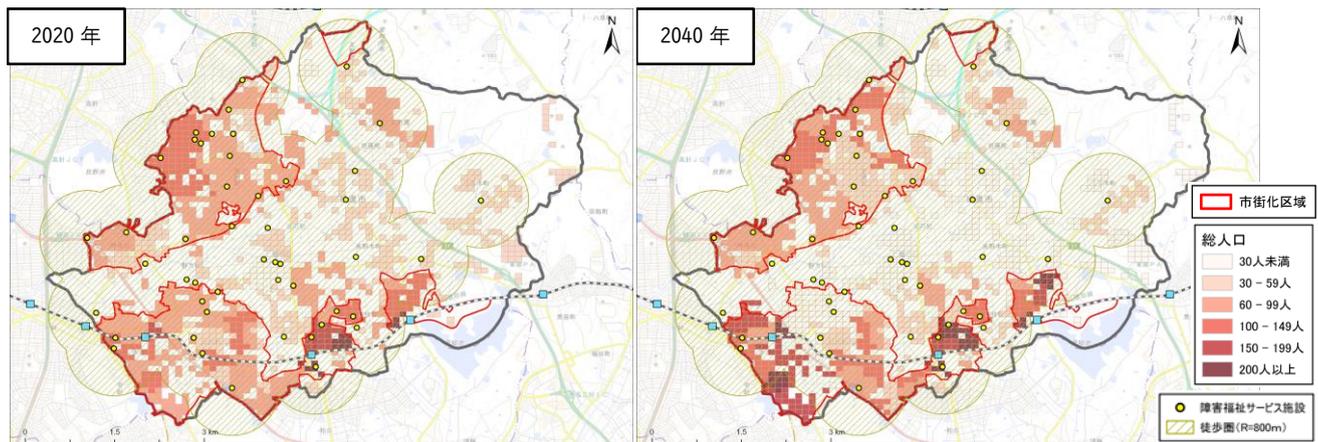


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-41 高齢福祉サービス施設の徒歩圏と高齢者人口増減(2020年⇒2040年)

## (5) 障害福祉

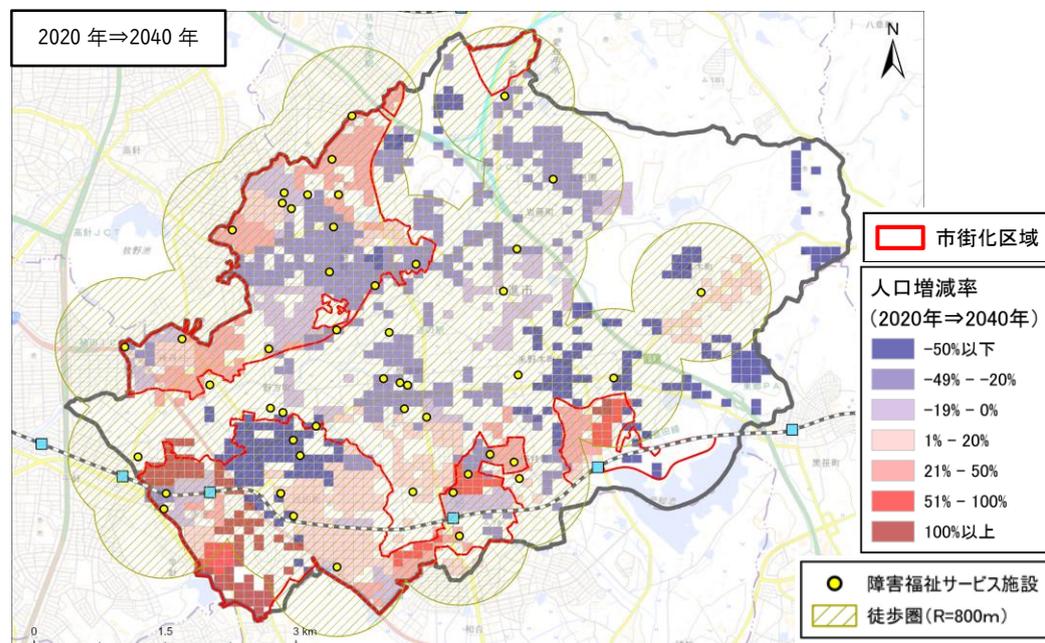
- 【現状】
- ・ 障害福祉サービス施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
  - ・ 障害福祉サービス施設の徒歩圏は、市の人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の障害福祉サービス施設の徒歩圏が 2040 年においても維持されていれば、市の人口を概ねカバーできる見込みです。
  - ・ 人口の増加が見込まれる赤池町や赤池南等の一部の地域では、障害福祉サービス施設の徒歩圏外となるところがあります。
  - ・ 障害福祉サービス施設の徒歩圏では、ほとんどの市街化調整区域に加え、浅田町、岩崎町等で 2020 年から 2040 年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※障害福祉サービス施設：通所系・訪問系・日中活動系



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-42 障害福祉サービス施設の徒歩圏と人口分布(左:2020 年 右:2040 年)



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

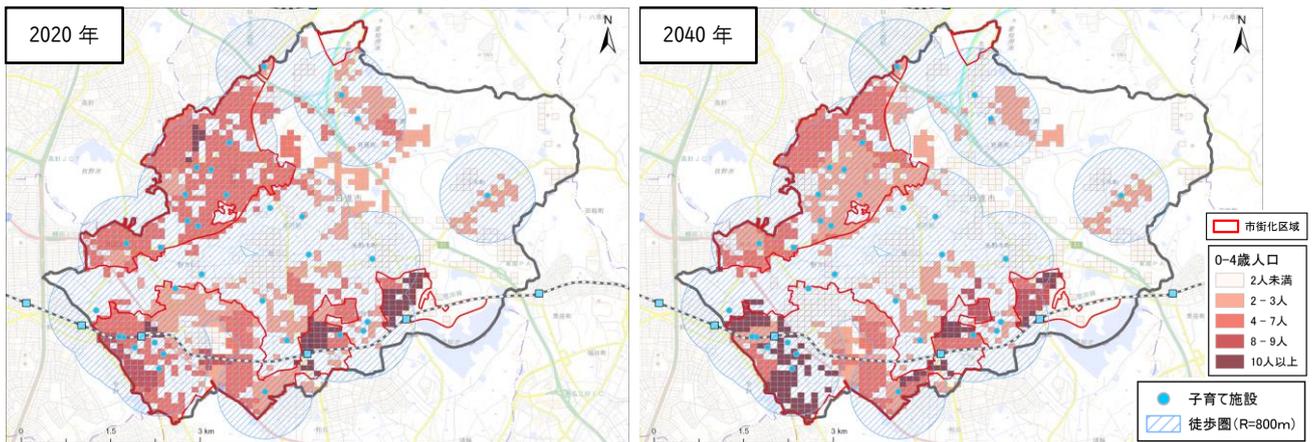
図 1-43 障害福祉サービス施設の徒歩圏と人口増減(2020年⇒2040年)

注：障害のある人の数をメッシュ単位で図示することは困難であることから、総人口のデータを図示しています。

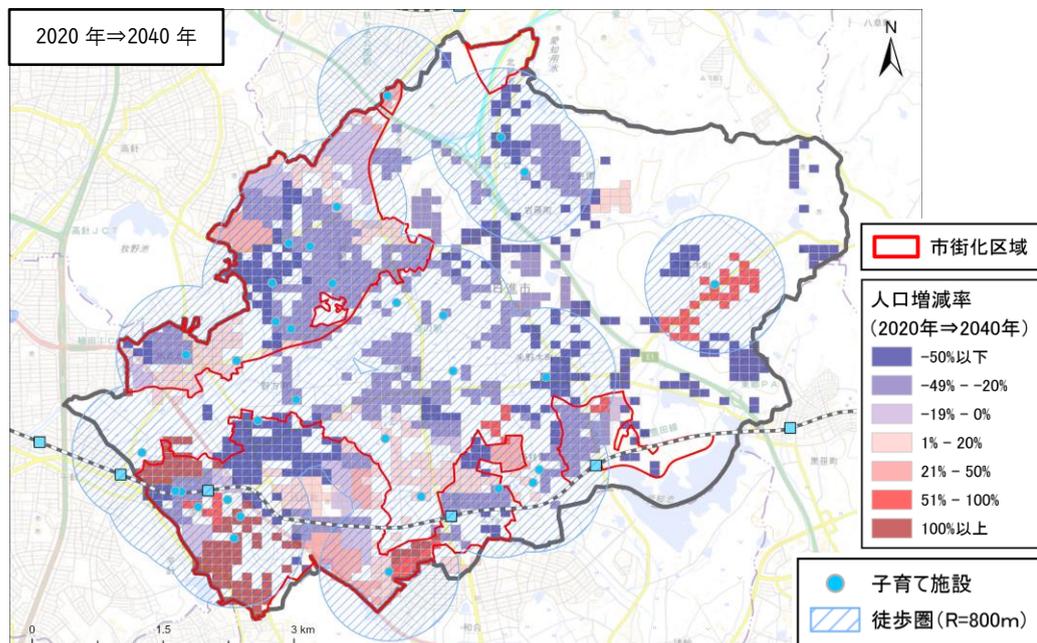
## (6) 子育て

- 【現状】
- ・ 子育て施設※は、市街化区域、市街化調整区域に広く立地しています。
  - ・ 子育て施設の徒歩圏は、市の0-4歳人口を概ねカバーしています。
- 【将来】
- ・ 現在の子育て施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の0-4歳人口を概ねカバーできる見込みです。
  - ・ 子育て施設の徒歩圏では、ほとんどの市街化調整区域に加え、米野木駅、浅田町、岩崎町周辺等で2020年から2040年にかけて0-4歳人口減少が見込まれるところがあります。

※子育て施設：幼稚園、保育園、認定こども園、小規模保育事業所



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料  
 図 1-44 子育て施設の徒歩圏と0-4歳人口分布(左:2020年 右:2040年)

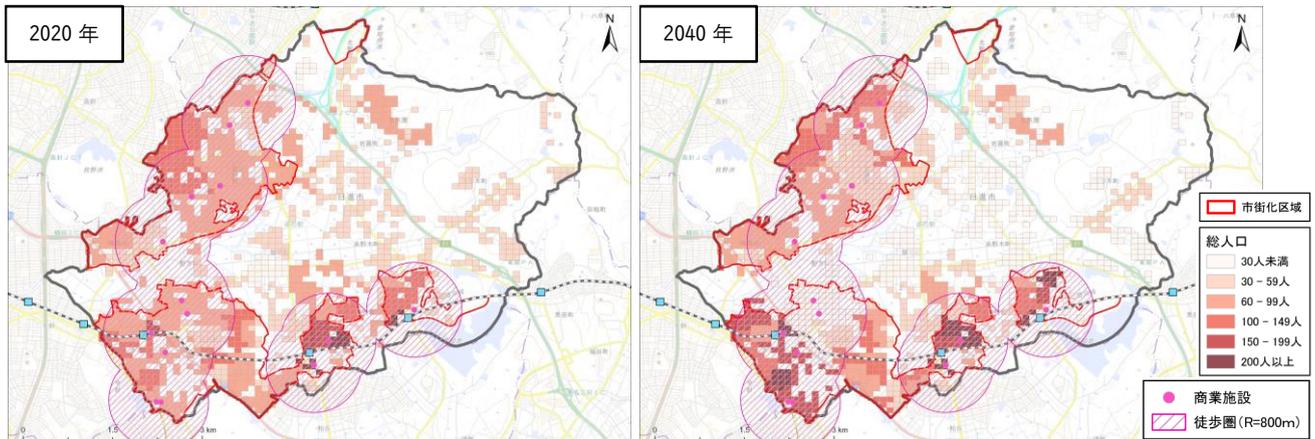


資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)、日進市資料  
 図 1-45 子育て施設の徒歩圏と0-4歳人口増減(2020年⇒2040年)

## (7) 商業

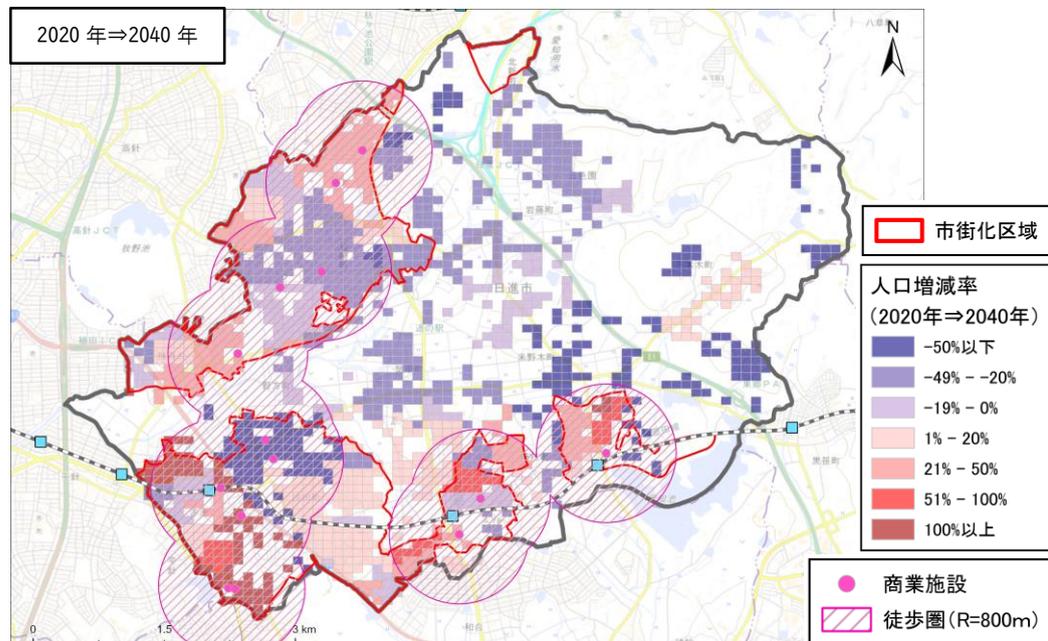
- 【現状】
- ・ 商業施設※は、すべて市街化区域に立地しています。
  - ・ 商業施設の徒歩圏は、赤池駅、日進駅、米野木駅周辺の人口が集中している地域を概ねカバーしています。
  - ・ 市街化区域では、岩崎台、藤塚周辺で商業施設の徒歩圏外となっているところがあります。
- 【将来】
- ・ 現在の商業施設の徒歩圏が 2040 年においても維持されていれば、2020 年から 2040 年にかけて、特に人口増加が見込まれる赤池駅、日進駅、米野木駅周辺を概ねカバーできる見込みです。
  - ・ 商業施設の徒歩圏では、浅田町や岩崎町周辺等で 2020 年から 2040 年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※商業施設：食料品を取り扱う大規模小売店（店舗面積 1,000 m<sup>2</sup>以上）、スーパーマーケット



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-46 商業施設の徒歩圏と人口分布(左:2020年 右:2040年)



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-47 商業施設の徒歩圏と人口増減(2020年⇒2040年)

## ■都市機能の課題

### 現状及び将来見通し

- ・市役所庁舎その他施設は市内に広く立地しており、特に、市街化調整区域であるが、市の中心部に市役所庁舎等の公共施設が集積しています。市役所庁舎その他施設の周辺では、2020年から2040年にかけて人口減少が見込まれます。
- ・小中学校は市内に広く立地しています。通学圏をみると、小学校通学圏は、概ねカバーできていますが、米野木町三ヶ峯の一部の地域でバス利用を含めた通学となっています。一方で、中学校通学圏は、市全域をカバーしています。2040年において、小中学校周辺の多くの地域では、5-14歳人口減少が見込まれます。
- ・医療施設は、市内に広く分布しています。徒歩圏をみると、現在の医療施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、人口、高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。しかし、おもに市街化調整区域における徒歩圏では、人口減少が見込まれます。
- ・高齢福祉サービス施設は、市内に広く分布しています。徒歩圏をみると、現在の高齢福祉サービス施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、高齢者人口を概ねカバーできる見込みです。しかし、高齢者人口の増加が見込まれる米野木駅周辺や三本木町等の一部の地域では徒歩圏外となる可能性があります。
- ・障害福祉サービス施設は、市内に広く分布しています。徒歩圏をみると、現在の障害福祉サービス施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、人口を概ねカバーできる見込みです。しかし、人口の増加が見込まれる赤池町や赤池南の一部の地域では徒歩圏外となる可能性があります。
- ・子育て施設は、市内に広く立地しています。徒歩圏をみると、現在の子育て施設の徒歩圏が2040年においても維持されていれば、市の0-4歳人口を概ねカバーできる見込みです。徒歩圏では、0-4歳人口減少が見込まれる地域もあります。
- ・商業施設はすべて市街化区域に立地しています。市街化区域では徒歩圏外の地域もありますが、特に人口が多く分布し、今後も増加が見込まれる赤池駅、日進駅、米野木駅周辺は、徒歩圏で概ねカバーされています。徒歩圏では、人口減少が見込まれる地域もあります。



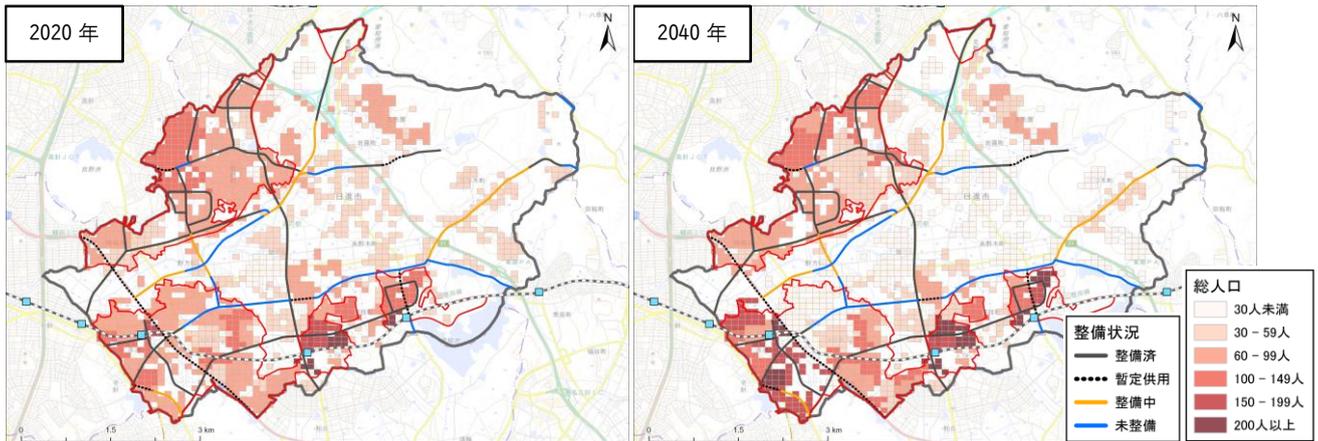
### 課題

- 市民ニーズや将来需要を踏まえながら、都市機能を維持していくことが必要
- 都市機能のカバー率が低い地域では公共交通ネットワークによる都市機能へのアクセス確保が必要
- 公共施設については、交通アクセスの維持・向上に加え、財政状況に応じた持続可能な運営が必要

## 5 都市基盤

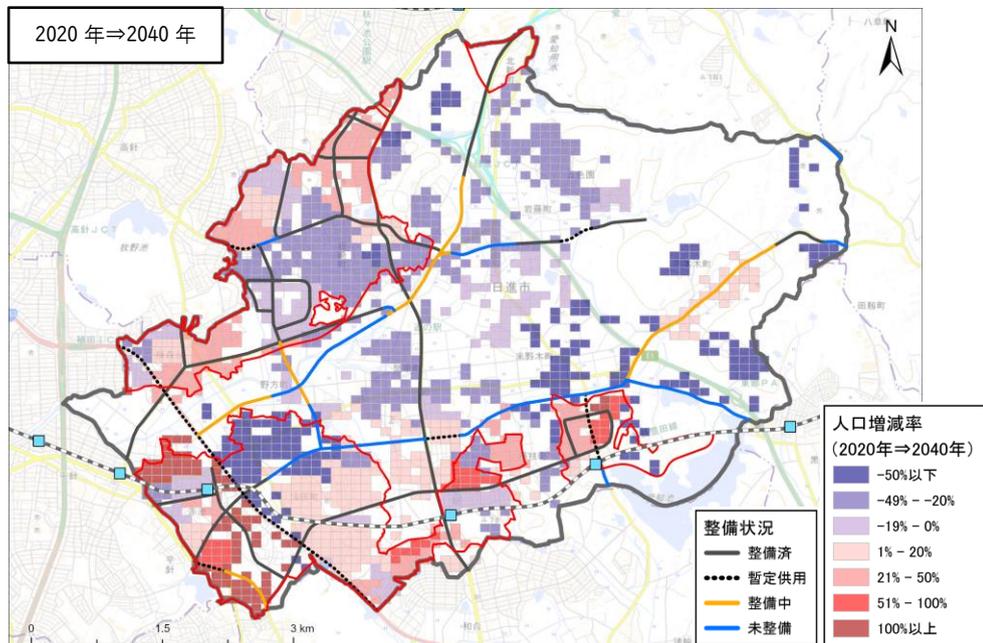
### (1) 都市計画道路

- 【現状】
- 都市計画道路は 27 路線が都市計画決定されており、そのうちの約 3 分の 2 が整備済みです。
  - 人口が多く分布している市街化区域では、概ね整備済みになっています。
- 【将来】
- (都) 野方三ツ池公園線が整備されることで、浅田町、野方町、香久山を結ぶ、新たな南北軸を結ぶ幹線道路ネットワークが強化される見込みです。
  - 整備中、未整備の道路が多い市街化調整区域では、2020 年から 2040 年にかけて人口が減少する見込みです。



資料: 国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-48 都市計画道路網図と人口分布(左:2020年 右:2040年)



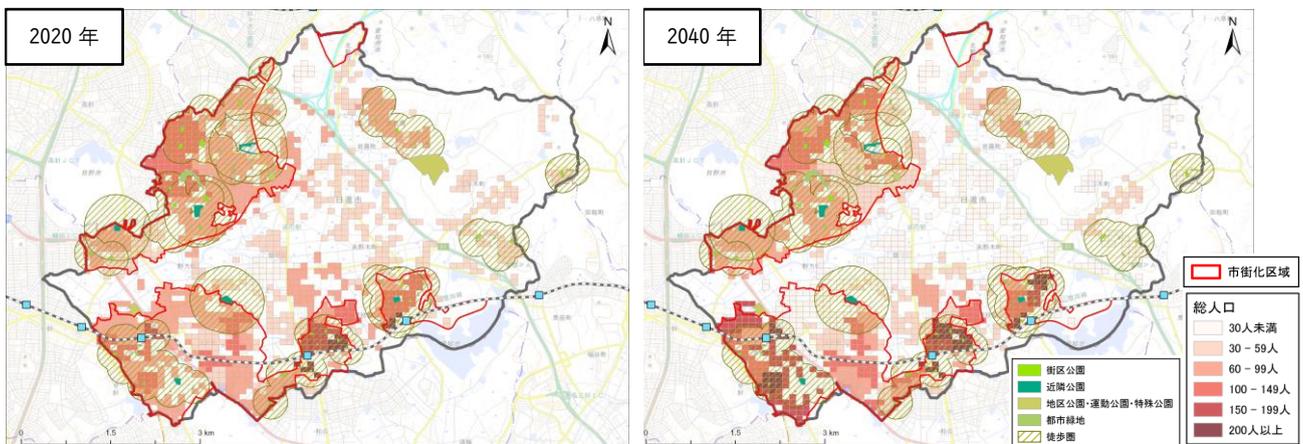
資料: 国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料

図 1-49 都市計画道路網図と人口増減(2020 年⇒2040 年)

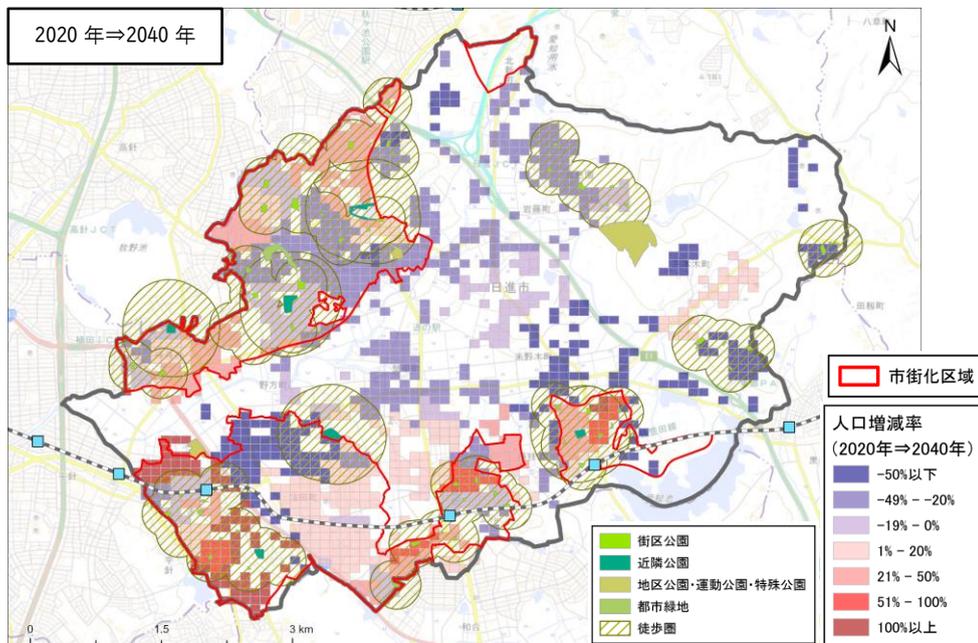
## (2) 都市計画公園

- 【現状】
- 都市計画公園は、70 か所が都市計画決定されており、その多くが市街化区域に立地しています。
  - 市街化区域のうち赤池駅、日進駅、米野木駅周辺や香久山等人口が多く分布している地域では、街区公園・近隣公園の徒歩圏※がカバーしています。
- 【将来】
- 現在の都市計画公園が 2040 年においても維持されていれば、人口が多く分布している地域では、概ね街区公園・近隣公園の徒歩圏をカバーしています。
  - 将来的に人口増加が見込まれる藤塚等では、街区公園・近隣公園の徒歩圏で人口がカバーできないところがあります。
  - 街区公園・近隣公園の徒歩圏では、浅田町、岩崎町周辺や市街化調整区域等で 2020 年から 2040 年にかけて人口減少が見込まれるところがあります。

※徒歩圏：街区公園 250m、近隣公園 500m



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-50 都市計画公園と人口分布(左:2020 年 右:2040 年)



資料：国土地理院、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020 年、2040 年)、日進市資料  
 図 1-51 都市計画公園と人口増減(2020 年⇒2040 年)

## ■都市基盤の課題

### 現状及び将来見通し

- ・市街化区域における道路・公園の都市基盤は、概ね整備済みです。
- ・(都)野方三ツ池公園線が整備されることで、浅田町、野方町、香久山を結ぶ、新たな南北軸を結ぶ幹線道路ネットワークが強化する見込みです。
- ・整備中や未整備の道路が多い市街化調整区域のほとんどでは、人口減少が見込まれます。
- ・将来的に人口増加が見込まれる一部地域では、公園の徒歩圏で人口がカバーできないところがあります。



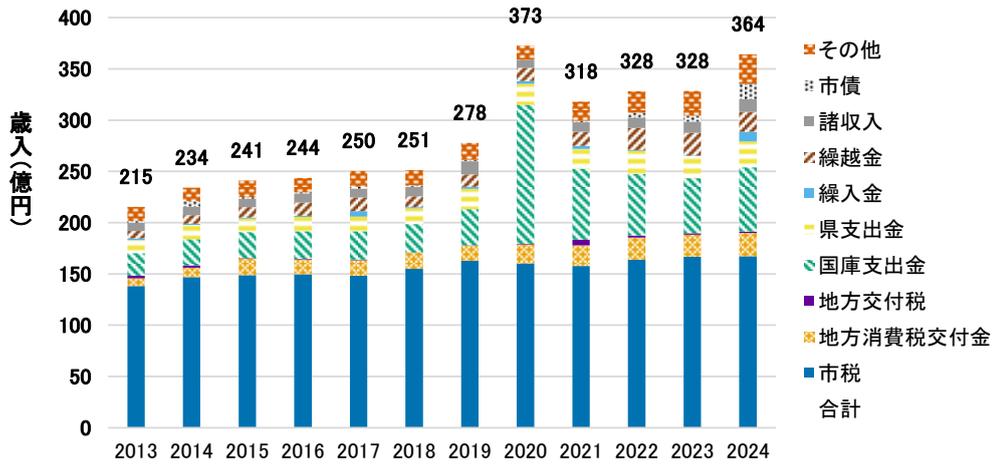
### 課題

- 快適な生活環境を支える都市基盤（道路・公園）を適切に整備、維持・管理、更新していくことが必要
- 市街化調整区域では都市経営コストも考慮しながら都市基盤（道路・公園）の維持管理が必要

## 6 財政

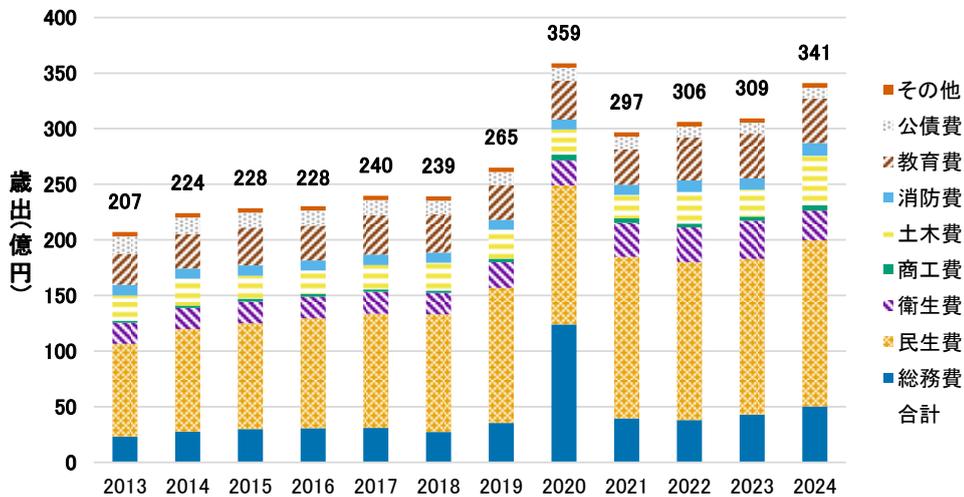
### (1) 歳入・歳出

- 【現状】 ・ 本市の歳入は、全体として増加傾向です。市民税等も増加傾向にあります。
- ・ 歳出は、全体として増加傾向で、特に民生費の増加が大きくなっています。
- 【将来】 ・ 民生費は高齢化の進行とともに増加するため、今後も歳出面で大きな比重を保持したまま推移していくことが想定されます。



資料：日進市資料

図 1-52 歳入推移

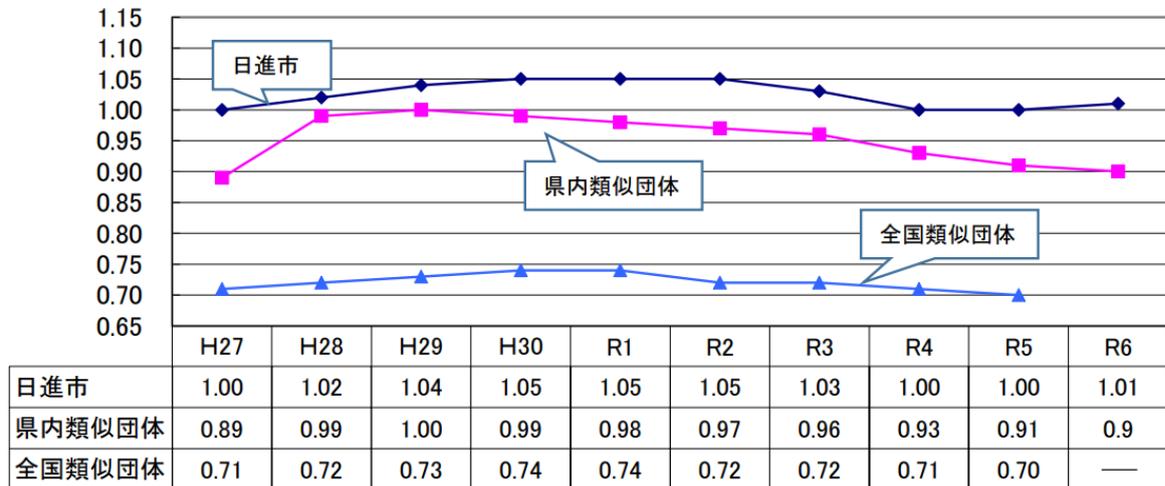


資料：日進市資料

図 1-53 歳出推移

## (2) 財政力

- 【現状】 ・ 本市の財政力指数は令和2年（2020年）以降低下傾向にありますが、令和6年（2024年）時点でも1.01となっており、県内や全国の類似団体と比べると、一貫して高い状況にあります。
- 【将来】 ・ 高齢化等による民生費の増大により長期的には財政運営の厳しさが増していく可能性があります。



資料：日進市の財政状況(2025年)

※財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数であり、基準財政収入額(標準的な地方税収)を基準財政需要額(行政事務の必要経費)で割った数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

図 1-54 財政力指数(3か年平均)の推移

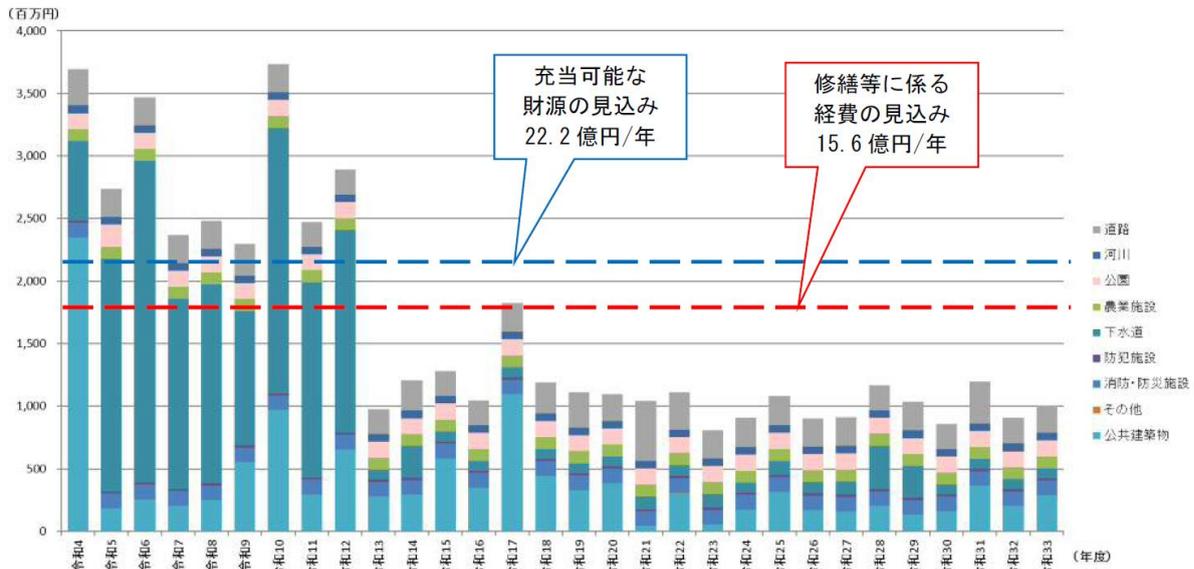
### (3) 公共施設等にかかる費用

- 【現状】 ・ 公共施設等の修繕費に占める、下水道及び公共建築物の修繕費の割合は、高い割合で推移してきました。
- 【将来】 ・ 令和12年以降は下水道及び公共建築物に要する修繕費が大幅に減少する見込みです。
- ・ 令和3年度時点で試算した今後40年間において、「公共建築物の修繕費用」や「インフラ資産（道路・下水道等）の修繕等・更新・新設に係る費用」は、財源が不足する見込みはありませんが、年度間の一時的な負担を軽減するための平準化が必要となります。

表 1-5 令和3年度時点の修繕等に係る経費と充当可能な財源の見込みの比較(日進市モデル)

区 分	修繕等に係る経費の見込み	充当可能な財源の見込み	過不足額
公共建築物（修繕費用）	160 億円 (4.0 億円/年)	260 億円 (6.5 億円/年)	100 億円 (2.5 億円/年)
インフラ資産（道路等、修繕等・更新費用）	263 億円 (6.6 億円/年)	268 億円 (6.7 億円/年)	5 億円 (0.1 億円/年)
インフラ資産（下水道、修繕等・更新・新設費用）	201 億円 (5.0 億円/年)	360 億円 (9.0 億円/年)	159 億円 (4.0 億円/年)
合計	624 億円 (15.6 億円/年)	888 億円 (22.2 億円/年)	264 億円 (6.6 億円/年)

資料:日進市公共施設等総合管理計画(2022年3月改訂)



資料:日進市公共施設等総合管理計画(2022年3月改訂)

図 1-55 修繕等に係る経費と充当可能な財源の見込みの比較(日進市モデル)

## ■財政の課題

### 現状及び将来見通し

- ・市の歳入は増加傾向にありますが、市の歳出も増加傾向にあり、特に民生費の増加が大きくなっています。民生費は高齢化の進行とともに増加するため、今後も歳出面で大きな比重を保ったまま推移していくことが想定されます。
- ・財政力指数は、県内や全国の類似団体と比べると高い状況にありますが、2022年以降は低下傾向にあります。高齢化等による民生費の増大により長期的には財政運営の厳しさが増していく可能性があります。
- ・令和3年度時点で試算した今後40年間において、「公共建築物の修繕費用」や「インフラ資産（道路・下水道等）の修繕等・更新・新設に係る費用」は、財源が不足する見込みはありませんが、年度間の一時的な負担を軽減するための平準化が必要となります。



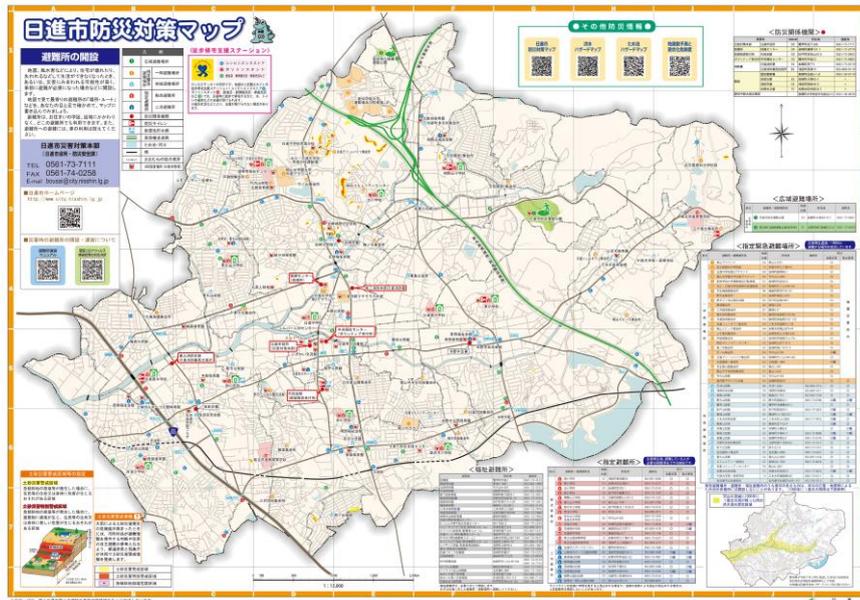
### 課題

- 高齢化に伴う民生費の増加や将来的な人口減少による影響を見据え、財政における歳入と歳出のバランスを踏まえた都市経営が必要
- 公共建築物や道路・下水道等のインフラ資産について、老朽化対策を計画的に実施しつつ、充て可能な財源の範囲内で進めることに留意が必要

# 7 防災

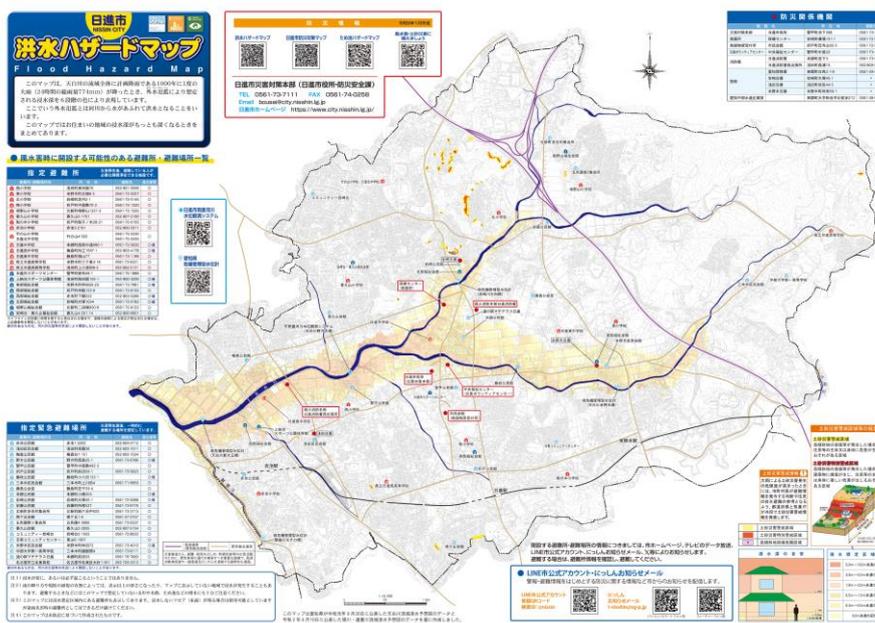
## (1) 避難場所・ハザードエリア

- 【現状】
- ・ 市内には2か所の広域避難場所、14か所の拠点避難所、8か所の二次避難所、26か所の一時避難場所、21か所の地域避難場所が指定されています。
  - ・ 既成市街地内に一部土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域の指定があります。
  - ・ 洪水浸水想定区域は河川沿いに限られています。
  - ・ 地震による津波の到来は想定されていませんが、河川沿いのごく一部の地域では、想定最大規模降雨時に3mを超える洪水浸水が想定されています。
- 【将来】
- ・ 災害時の迅速な対応に向け、防災訓練や要配慮者への支援体制の構築等のソフト対策も組み合わせる必要があります。



資料: 日進市防災対策マップ(令和8年1月更新版)

図 1-56 防災対策マップ

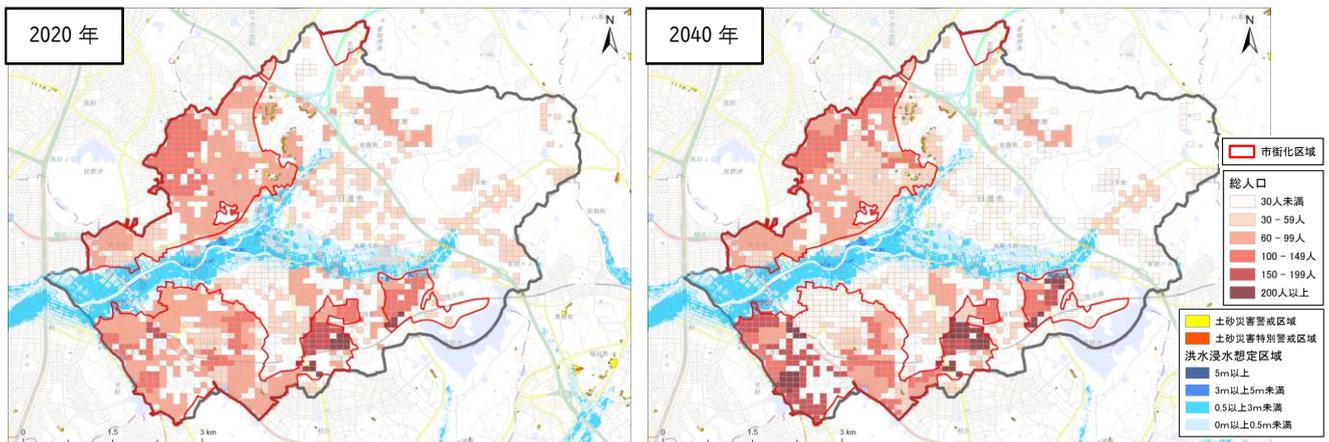


資料: 日進市ハザードマップ(令和8年1月更新版)

図 1-57 ハザードマップ

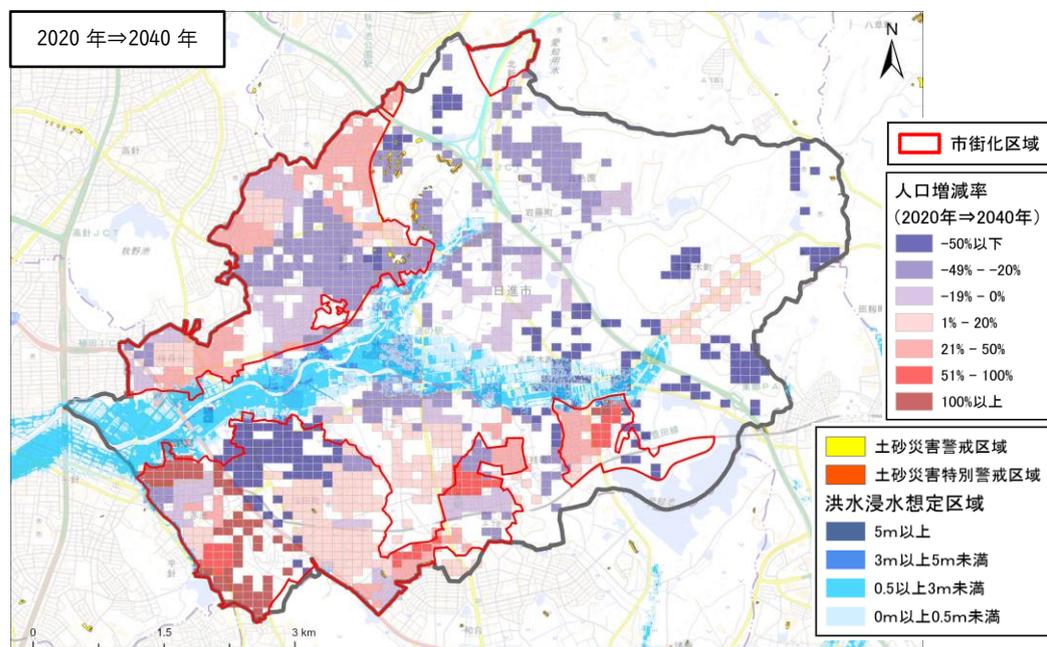
## (2) 災害ハザードエリアと人口分布

- 【現状】
- ・ 市街化区域には、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等はほとんど含まれていません。
  - ・ 市街化調整区域の河川沿いでは、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等と人口分布が重なるところがあります。
- 【将来】
- ・ 2020年から2040年にかけて、市街化区域において人口増加が見込まれる赤池町や梅森町、米野木台等の一部は0.5m以上の洪水浸水想定区域となっています。
  - ・ 市街化調整区域の人口減少に伴い、洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等と人口分布が重なるところの人口は減少する見込みです。



資料：国土地理院、愛知県 洪水浸水想定区域(想定最大規模(R6、R7)、国土数値情報 土砂災害警戒区域データ(R6)、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-58 災害ハザードエリアと人口分布(左:2020年 右:2040年)



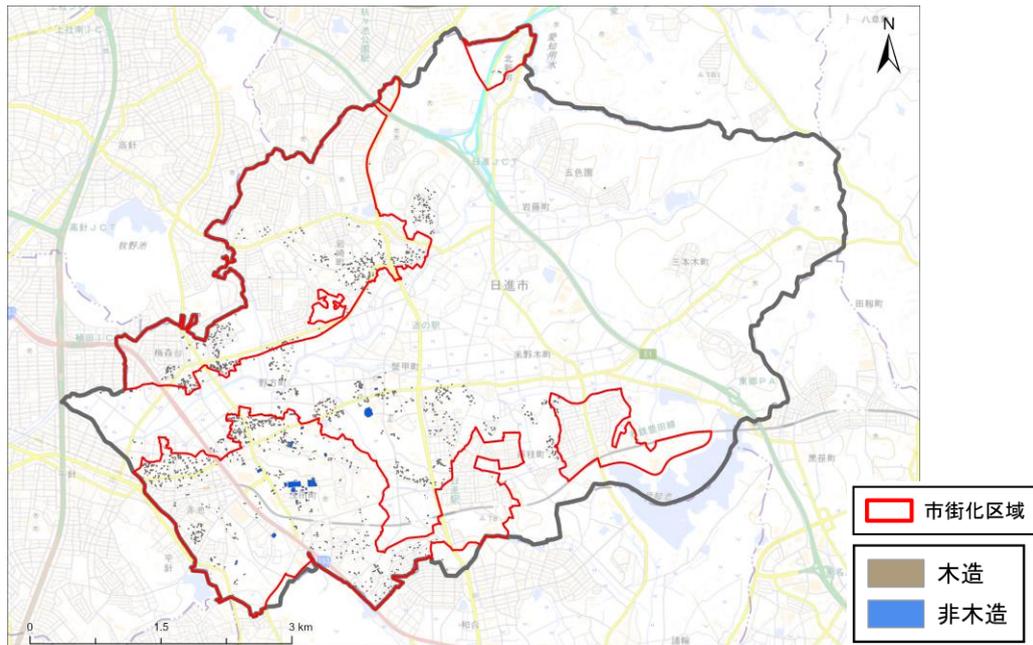
資料：国土地理院、愛知県 洪水浸水想定区域(想定最大規模(R6、R7)、国土数値情報 土砂災害警戒区域データ(R6)、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(R2 国調対応版)」(2020年、2040年)

図 1-59 災害ハザードエリアと人口増減(2020年⇒2040年)

### (3) 老朽建物の分布

- 【現状】
- ・ 既成市街地や古くからの土地区画整理事業により形成された団地や旧住宅地造成事業法の団地には、木造の老朽建物※が多く分布しています。
  - ・ 市街化調整区域では蟹甲町や岩崎町等に木造の老朽建物が分布しています。
  - ・ 浅田町、蟹甲町では工場等の大規模な非木造の老朽建物が分布しています。
- 【将来】
- ・ 今後、建物の老朽化が進行すると、地震や風水害等の災害時に倒壊や損壊、火災発生等のリスクが高まり、被害の拡大が懸念されます。

※老朽建物…昭和45年以前に建築された建物（参考:都市計画基礎調査の区分）



資料: 国土地理院、都市計画基礎調査(2022)

図 1-60 老朽建物の分布

## ■防災の課題

### 現状及び将来見通し

- ・災害ハザードエリアにおける 2040 年の人口分布をみると、人口増加が見込まれる市街化区域のほとんどは洪水浸水想定区域外となっていますが、赤池町や梅森町、米野木台等の一部は 0.5m 以上の洪水浸水想定区域となっています。
- ・既成市街地等に老朽建物が分布しており、建物の老朽化が進むと、災害時の被害拡大が懸念されます。



### 課題

- 災害リスクが懸念されるエリアでは、市民が災害に対して安全に暮らせるための災害リスクの低減が必要
- 老朽建物による災害時の被害低減が必要

## 8 都市づくりの課題整理

	現状及び将来見通し	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来的には人口が減少するとともに、少子高齢化が進行</li> <li>●赤池駅、日進駅、米野木駅周辺等では、更なる人口増加及び人口密度の上昇が進行</li> <li>●人口集中地区の面積は拡大傾向にあるが、人口密度は2015年から減少</li> <li>●市街化調整区域のほとんどでは人口減少及び人口密度の低下が進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少や少子高齢化が進む中においても、必要な生活サービスを確保し、都市の活力を維持していくことが必要</li> <li>●今後増加が見込まれる高齢者と子育て世代が、安心して暮らせる環境の充実が必要</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街化区域に建物用地が多く分布しているが、市街化調整区域にも建物用地が広く分布</li> <li>●地価は特に赤池駅、日進駅周辺で上昇傾向</li> <li>●人口減少に伴い空家が増加する可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街化区域の駅周辺や生活拠点となるエリアの魅力を維持・向上させるために、適切な土地利用や効率的な都市機能の配置を図ることが必要</li> <li>●空家の適切な管理や有効活用が必要</li> </ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在の公共交通が2040年においても維持されれば、徒歩圏で人口を概ねカバーする見込み</li> <li>●人口減少に伴い、鉄道の運行本数やバスの路線・運行本数に影響が出る可能性がある</li> <li>●代表交通手段は、鉄道・バスの利用が1割にとどまる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少下においても、引き続き必要となる公共交通については、維持・利用促進が必要</li> <li>●高齢者等の配慮が必要な人々の移動手段の確保が必要</li> </ul>
都市機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療施設、高齢福祉サービス施設、障害福祉サービス施設、子育て施設は徒歩圏の人口カバー率は高いが、人口減少が進む地域もある</li> <li>●商業施設は、人口が多く分布している地域での徒歩圏のカバー率は高い</li> <li>●市街化調整区域である市の中心部に市役所庁舎等の公共施設が集積しており、市役所庁舎その他施設周辺では人口が減少する見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民ニーズや将来需要を踏まえながら、都市機能を維持していくことが必要</li> <li>●都市機能のカバー率が低い地域では公共交通ネットワークによる都市機能へのアクセス性確保が必要</li> <li>●公共施設については、交通アクセスの維持・向上に加え、財政状況に応じた持続可能な運営が必要</li> </ul>
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街化区域における道路や公園の都市基盤は概ね整備済み</li> <li>●整備中や未整備の道路が多い市街化調整区域のほとんどでは、将来的に人口が減少する見込み</li> <li>●将来的に人口増加が見込まれる一部地域において、公園の徒歩圏で人口がカバーできない地区がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●快適な生活環境を支える都市基盤（道路・公園）を適切に整備、維持・管理、更新していくことが必要</li> <li>●市街化調整区域では都市経営コストも考慮しながら都市基盤（道路・公園）の維持管理が必要</li> </ul>
財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の歳入・歳出は増加傾向</li> <li>●高齢者の増加による民生費（社会保障制度の実施に係る経費）の増加</li> <li>●財政力指数は県内や全国の類似団体と比べると高いが、高齢化等による民生費の増大により長期的には低下する可能性がある</li> <li>●令和3年度時点で試算した今後40年において、「公共建築物の修繕費用」や「インフラ資産（道路・下水道等）の修繕等・更新・新設に係る費用」は、財源が不足する見込みはないが、年度間の一時的な負担を軽減するための平準化が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化に伴う民生費の増加や将来的な人口減少による影響を見据え、財政における歳入と歳出のバランスを踏まえた都市経営が必要</li> <li>●公共建築物や道路・下水道等のインフラ資産について、老朽化対策を計画的に実施しつつ、充実に可能な財源の範囲内で進めることに留意が必要</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街化区域の一部は、災害ハザードエリア内で災害リスクが懸念される</li> <li>●建物の老朽化が進むと、災害時の被害拡大が懸念される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害リスクが懸念されるエリアでは、市民が災害に対して安全に暮らせるための災害リスクの低減が必要</li> <li>●老朽建物による災害時の被害低減が必要</li> </ul>